



(題字は初代学長 山田守英氏)

第 194 号

令和 6 年 3 月 29 日

編集 旭川医科大学
発行 学生支援課



「福寿草」

(写真撮影：学生支援課)

本学を巣立っていく皆さんへ……………学長 西川 祐司… 2
 令和5年度 学位記授与式…………… 4
 旭川医大での学生生活を振り返る
 …………… 医学科第46期生 秋田谷悠佑… 5
 卒業にあたって…………… 医学科第46期生 伊東 佳昭… 6
 卒業にあたって…………… 医学科第46期生 上川 昇太… 7
 恥の多い学生生活を送って来ました。
 …………… 医学科第46期生 佐藤 有沙… 8
 卒業にあたって…………… 看護学科第25期生 柴田 瞳… 9
 卒業にあたって…………… 看護学科第25期生 坂本 莉愛… 10
 卒業にあたって…………… 看護学科第25期生 星野 空… 11
 卒業にあたって…………… 看護学科第25期生 吉岡 葉月… 12
 退職の御挨拶… 保健管理センター 特命教授 川村祐一郎… 13
 定年退職にあたって
 ～組織はジグソーパズル, 能力は団体に存在する～
 皮膚科学講座 教授 山本 明美… 15

定年退職にあたって ー旭川医大での19年の思い出ー
 …………… 腎泌尿器外科学講座 教授 柿崎 秀宏… 17
 令和5年度退職に伴う最終講義が行われました…………… 19
 教授就任のご挨拶… 一般教育 社会学 教授 工藤 直志… 21
 就任のご挨拶
 …… 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授 高原 幹… 23
 第11回医学科白衣式…………… 25
 学生表彰を行いました…………… 26
 授業評価(2023年度前期)…………… 28
 国民年金の学生納付特例制度について…………… 54
 令和6年度授業料免除等の申請について…………… 55
 令和6年度日本学生支援機構奨学生の募集について…………… 56
 教員の異動…………… 56



本学を巣立っていく皆さんへ

旭川医科大学

学長 西川 祐 司

医学科第46期生の133名の皆さん、看護学科第25期生61名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今振り返ってみて本学での学生生活はいかがだったでしょうか。2020年1月から本格的に流行し始めた新型コロナウイルス感染は大変に大きな試練だったと思いますし、皆さんの人生にさまざまな影響を及ぼしたと察しています。

看護学科の皆さんにとって2020年は入学した年ですので、入学直後から登校することなくオンライン授業を受ける形になり、クラスメートとの交流がほとんどできない辛い時期が長く続きました。その後少しは大学生活の制限が緩和されましたので、十分とは言えないにしても友人同士の絆を結ぶことができたでしょうか、そうであって欲しいと心から願っています。

医学科の皆さんの多くは2020年の新学期を3年生として迎えましたが、前期の基礎医学実習のほとんどがオンラインの形で実施されることになりました。私は病理学実習を担当しましたが、多数の組織写真のPDFをあらかじめmanabaで配布しておき、実習時間中は時々指示を出したり、質問をしたり、Zoomで解説しながら、毎回、教授室でひとりパソコンに向かって悪戦苦闘していたことを思い出します。顕微鏡を使わずに病理学実習を行うというのはかなり無茶なことですので、それでも実習に似たようなことが遠隔的にできたという技術の進歩には感謝しなければなりません。ただ、自ら観察するという最も大切なことを体験させてあげることができなかったことは今も残念に思っています。

実習試験は対面で行いましたが、試験が始まる前の試験室が静まり返っているのにショックを受けたことも鮮明に思い出します。本当なら久しぶりに会って大騒ぎしたかっただろうに、感染防止のための学内ルールでやむを得ないとは言え、あまりにかわいそうでした。クラブ活動もかなり制限され、医大祭も中止となり、先輩や後輩とも十分に交流できなかったかと思えます。先生方とのつながりも当然ながら不十分であったでしょう。私自身にとっても本当に悲しいことですが、正直なところ皆さん方の素顔がよく分からないのです。質問を受けたりすることで何人かの皆さんとは直接お会いしていますが、ずっとマスク越しでの対面でした。せめて学位記授与式では皆さんの顔をよく見

て、目に焼き付けたいと思っています。

しかし、果てしなく続くかと思われたコロナ禍もようやく終息しつつあり、私たちの日常生活もほぼ正常に戻りました。皆さんが新しい旅立ちの時に余計な障害物に悩まされずに迎えることができることを心からうれしく思います。予想もしなかった苦しい大学生活を経験した皆さんは、孤独を感じ、悲しい思いをしたことも多かったに違いありません。それだけに人と人のつながりの大切さを感じているでしょうし、これを切望してきたのではないかと思います。もしかするとこのつながりを見失って今も悩んでいる方もいるかも知れません。是非、これから皆さんが歩む人生の中でコロナ禍の3年間に足踏みした分を取り返して下さい。皆さんはまだ若いのですから、絶対に大丈夫だと信じています。4月からの新しい職場においては、前を向いて相手と目を合わせ、きちんとあいさつをすることから始めてください。そして、これから一緒に働く上司や同僚と揺るぎない信頼関係を築き上げ、優秀で心優しく、頼りがいのある医師、看護職者、研究者に成長されることを心から願っています。そして、病気で悩む患者さんの悲しみをよく感じ、助けてあげてください。数学者の岡潔氏は「道義の根本は人の悲しみがわかるということにある」と述べられていますが、これまでの皆さんの経験は後からきっと良い意味で生きてくると思います。

本学は皆さんがいつでも戻ってこることができる心の拠り所です。皆さんがそれぞれの個性を生かし、北海道で、全国で、世界で活躍していく姿を思い描きながら、心からのエールを送りたいと思います。あらためてご卒業おめでとうございます。

令和5年度 学位記授与式

令和6年3月25日(月)午前10時30分から、本学体育館において令和5年度旭川医科大学学位記授与式を挙行了しました。式典の様子は、多くの方にご覧いただけるようライブ配信を行いました。

今年度の学位記授与者は、医学科133名、看護学科61名、会場を変えて行われた大学院の学位記授与者は、修士課程5名、博士課程4名、論文博士3名です。学位記は、西川祐司学長から卒業生・修了生一人ひとりに手渡しで授与されました。

学位記授与に続き、学業成績優秀者表彰が行われ、在学期間を通じて極めて優秀な学業成績を修めた学部学生4名の被表彰者に木彫りの表彰楯が贈られました。

最後に西川祐司学長から卒業生に向けて激励のメッセージが送られ、卒業生謝辞では、卒業後の決意と感謝の言葉が述べられました。

式典終了後には、本学学生食堂において祝賀会が行われ、これまでお世話になった先生方や共に過ごした仲間と語り合いました。



学位記授与



学業成績優秀者表彰



式辞



医学科謝辞



看護学科謝辞



祝賀会

旭川医大での学生生活を振り返る

医学科第46期生 秋田谷 悠 佑



まさか医学科に合格するとは心にも思っていなかったあの瞬間から6年経過しました。長いようであつという間のように… やはり長い6年でした。私が『かぐらおか』の原稿を執筆するのは2回目であり、1回目はちょうど入学の時（2018年8月、通算172号）でした。入学と卒業という大きな節目にこのように原稿依頼をいただき光栄に思います。入学当時の原稿を見てみると、生活面や大学での学習に不安を抱いているものの奮闘している様子が記されていました。当時の自分に「大丈夫だよ、うまくいっているよ」と伝えたいものです。

この6年間の学生生活の中で大切にしていた考えとして、「面白くやっつていこう」というものがあります。面白くやっつていくには、「どうすれば面白くなるか？」を考えなければなりません。これは、旭川医大の求める「research mind」の考え方に通ずるものがあるのではないかと考えます。このような考えを持って様々なこと（多くは勉強に関してですが）に取り組むと、一見関係なさそうな内容が既知の内容と結びつく、感動の瞬間があります。更なる感動を求めるあまり勉強が止まらなくなったことがあり、とある友人から「マグロのようだ」と言われたこともあります。

このような学生生活を過ごすことができたのは周りの方に恵まれたことが大きいと思っています。「マグロのような」私を受け入れてくれた学友達、入学直後に「バイトはしなくていいからとにかく勉強しなさい」と言ってくれた親、さらに自分の疑問に対して親切にご指導いただき、さらには全国学会や全国規模の研究に参加する機会を与えてくださった先生方、他にもさまざまな方に恵まれたおかげで医学を楽しむことができたのだと思います。紙面上で大変恐縮ですが、改めてお礼を申し上げたいと思います。大変ありがとうございました。そして、これからもよろしく願いいたします。

卒業にあたって

医学科第46期生 伊東佳昭



「あれ、ついこの前まで1年生だったのに」と思うほど、旭川医科大学での6年間はあっという間に過ぎていきました。そう感じるほど、学生生活は非常に充実していたのだと思います。座学や実習を通して、勉学に励むことだけでなく、友人をはじめとする様々な方々との出会いは私にとって良い刺激となり、物事に対する視点や考え方が広がったと考えています。

大学生活の中で、私は足首の骨を折り、1ヶ月ほどの入院を経験しました。入院は授業や教科書で学んでいたよりもストレスのかかるものでした。外出できず、1日の多くをベッド上で過ごすことはフラストレーションが溜まる経験であったことに加え、社会との隔絶感も感じました。またコロナ禍であったため、家族や友人との面会もできない状態でした。この経験から、自分がこれまで学んだことよりも患者さんは多くの不安やストレスを感じているということを体感することができました。そのような入院生活の中でも、医師や看護師をはじめとする医療従事者の方々との会話やサポートは非常に大きな心の支えとなりました。私は1ヶ月の入院でしたが、患者さんの中にはより長く入院している方もおられます。そんな患者さん一人一人の不安や気持ちに寄り添い、適切な治療やサポートをすることのできる医師、医療従事者になりたいと感じています。言葉で言うことは簡単ですが、実際にこれを実行することはなかなか難しいのだと思います。実際に私がお世話になった医療従事者の方々のようにするには時間はかかるかもしれませんが、一人前の医師になれるようにこれからは一層の努力をしていきたいと思っています。

最後になりますが、ここまで支えてくれた家族、友人、ご指導くださった先生方に心より感謝を申し上げます。医師として、ようやくスタートラインに立つことができ、期待と不安に胸を膨らませておりますが、支えてくださった皆様のご恩に報いることができるよう尽力していこうと思います。

卒業にあたって

医学科第46期生 上川昇太



6年という時間は長いようで短く、やり残したことは数多くあります。しかし、不思議と後悔はなく、卒業を控えた今はむしろ充実感に満ちています。勉強はもちろん、部活やアルバイト、研究など本当にさまざまな経験をこの6年間で積むことができました。こうしてたくさんの経験をし、大きく成長することができたのは、紛れもなく多くの人との出会いとその関わりがあったからだと確信しています。

6年前、淡路島から遠く旭川の地へと私はやってきました。頼れる家族も友人もない土地での生活は不安ばかりのスタートでした。しかし大学生活が始まると、講義、試験、部活動と目まぐるしく日々は過ぎ去っていきました。その中で、切磋琢磨し合いながら共に勉学に励んでくれる友人たちと出会いました。努力家で、個性溢れる彼らは友人であり、志を同じくする仲間であったと思っています。

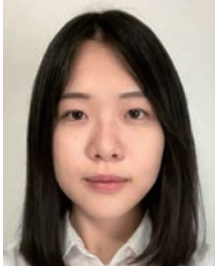
部活動は剣道部とブラスアンサンブルに所属し、高校時代に負けないどころか、それ以上に部活動に身を捧げました。まさに最後の青春を謳歌した日々であったと実感しています。こんなにも剣道や吹奏楽に真剣に向き合えたのは、勉学に懸命に励みながらも、妥協することなく必死に練習に取り組む先輩の背中に憧れていたからです。親身に寄り添って下さる先輩方や慕ってくれる後輩たち、そして苦楽を共にした同期と出会えた部活動は私にとってかけがえのない場所でした。

しかし、そんな満ち足りた日々も突如コロナ禍により、自室でただひたすらに画面と向かい合う毎日へと一転しました。得られたかもしれない出会いや経験。過ぎたことを考えても仕方ないけれど、無視することのできない時間。そこで改めて人との繋がり的重要性を実感しました。時間は有限であり、やりたいこと全てを完遂できた6年ではなかったと思います。しかし、後悔のないよう、様々なことに挑戦し、その時々で自分にとってときめく道を選択できたように思っています。

私の旭川医科大学での6年間は、たくさんの出会いによって彩られ、色鮮やかな学生生活となったと感じています。最後になりましたが、熱心にご指導下さった先生方、温かく見守ってくれた家族、そしてこれまで支えて下さった全ての方に心より感謝を申し上げます。

恥の多い学生生活を送って来ました。

医学科第46期生 佐藤 有沙



自分の学生生活を一言で表すならば、太宰治『人間失格』の冒頭になぞらえたこの言葉が合うような気がします。

生粋の文系、ネガティブ思考、極度の心配性の私にとって、医学部での生活は困難の連続でした。基礎医学の用語は呪文に見え、不安と緊張で試験のたびに固形物が喉を通らず、不眠になりました。実習では何か失敗してしまうのではと心配が絶えず、毎日ヘトヘトでした。そしてこんな自分が本当に医師になれるのだろうかと思ひ、また眠れなくなりました。こう並べていくと自分の弱さと不器用さに我ながら情けなくなります。

でも、このような私が、決して楽ではなかったこの時間を駆け抜けることができたのはなぜか。努力？精神力？いいえ、何より大きかったのは、たくさんの方が私を支えてくださったことでした。

授業や実習でわからないことがあれば、納得するまで丁寧に教えてくださった各講座の先生方、体調が優れない時親身に話を聞いてくださった保健管理センターの保健師さん、試験の不安で押しつぶされそうになった時「絶対に大丈夫！」と一緒に勉強してくれた同期、忙しい中でも差し入れを準備し、温かいメッセージをくれた後輩たち、不安で眠れない時深夜まで励ましてくれた家族…そのほかにも書ききれないくらい多くの人達に力をもらったからこそ、こんなに弱い私でもここまで来ることができたのだと思います。

これを読んでくださっている後輩のみなさん。残念ながら辛いことはやってきます。でもそんなときには周りを見てください。きっとみなさんの力になってくれる人たちがいます。1人で乗り越えなきゃと気負う必要はありません。チーム医療においては、助けを求めることができるというのも医療者として大切な能力の1つだと私は思います。その練習のつもりで、限界が来る前にヘルプを出してください。どうしても助けを求める先がなければ、私も力になります。

最後に、題名を修正してこの拙文を終えます。

「恥も多いかもしれませんが、たくさんの方の助けや優しさに支えられて、充実した学生生活を送って来ました。」

力になってくださった皆さまへ心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

卒業にあたって

看護学科第25期生 栄田 瞳



入学してから早くも4年の月日が経ち、多くの方に支えられ無事に卒業を迎えることができました。私たちの学年は特にCOVID-19の影響を強く受けた学年ですが、この4年間を通して勉強に部活動、アルバイトなど多くの思い出があり、充実した日々を過ごすことができました。

1年目はCOVID-19の世界的拡大によりオンライン授業が中心でした。初めはZoomもなかったため同期の顔を見ることもできず、孤独を感じながら膨大な課題に圧倒される毎日を送っていました。徐々に登校できるようになり、同期と共に過ごせることの喜びを強く実感しました。

1年生の頃は目の前の課題や演習をこなすことに必死でしたが、2年生になるとオンライン授業や半数登校にも慣れ、講義・演習・実習などを通して看護の面白さや難しさに気づき始めました。また、初めての病院実習では患者さんの個別性を踏まえた上での看護を考え、実践することがいかに重要であるかを学びました。

3年生の領域別実習では、隔日実習や半日実習などの制限がありましたが、患者さんを多角的に捉えること、退院後の生活を踏まえた看護の重要性など多くのことを学ぶことができました。

4年生の総合実習では、初めて複数の患者さんを受け持たせていただきました。優先順位を考えながら多重課題をこなすこと、看護師間はもちろん多職種間でも密にコミュニケーションを図り連携・協働することの重要性を深く学びました。そして、COVID-19の制限解除もあり、これまで以上に実践的な実習ができたことで看護師を目指す意欲がより高まりました。

振り返ると、この4年間は本当にあっという間でした。在校生の皆さんには、学生として得られる経験を大切に、長いようで短い学生生活を精一杯楽しんで過ごして欲しいと思います。

4月からは看護師として勤めます。4年間の学びを糧に患者さん1人ひとりに寄り添える看護師になれるよう精進して参ります。

最後になりますが、これまでお世話になったすべての方に深く感謝申し上げます。

卒業にあたって

看護学科第25期生 坂本 莉愛



旭川医科大学に入学してから早くも4年の月日が経ちました。卒業を迎えた今、大学生活を振り返ると多くの学びや経験、出会いがあり、非常に充実した4年間でした。

私たちは、入学当初から新型コロナウイルス感染症の蔓延により、オンラインでの講義や隔日実習等の制限を余儀なくされました。しかし、このような状況でも先生方のご尽力により、工夫された授業で多くの学びを得ることが出来ました。コロナ禍での経験も含め、この4年間で医療・看護に関する深い知識・技術を獲得すると共に、それを患者さん一人ひとりに良い影響をもたらすよう、看護計画を立てて活用していくことが重要であると学びました。オンラインでの授業から盛んに行われていたグループディスカッションでは、多角的に物事を捉えることで自身の視点を広げ、医療や看護の連携における協調性を高めることが出来ました。

そしてこの4年間、多くの方に出会い、支えていただきました。部活動で参加した東医体・コンサートでは、全員で目標に向かって最高のパフォーマンスを発揮しようと切磋琢磨し合いました。大学生活を送る中で、楽しいことや嬉しいことだけではなく、辛いことも沢山ありました。それらを乗り越え、頑張りが続けることが出来たのは、同級生や部活動の先輩・後輩、見守ってくれた家族、熱心にご指導くださった先生方のおかげです。このような環境で過ごせたことは幸運であったと感じています。これからも人との出会いや関わりを大切にしていきたいと思います。

4月からは看護師として勤めます。これまでの学びを糧に知識や技術の研鑽に努め、患者さんに寄り添った看護を行う医療者になれるよう今後も精進して参ります。

最後になりますが、これまで私を支えてくださった皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

卒業にあたって

看護学科第25期生 星野 空



私が旭川医科大学に入学してから早くも4年という月日が経ち、期待を胸に始まった大学生活、そしてたくさんの学びを得てきた学生生活も終わりを迎えようとしています。私たち第25期生は、新型コロナウイルスの影響で入学式もなく、同期と同じ教室で授業受けることも制限される中、看護学生としての生活がスタートしました。

しかし、このような環境においても講義や実習、部活動やアルバイトなどこれまでの経験を振り返ると充実した4年間であったと実感しています。私は、実習で出会った患者さんの疾患や思い、地域の方々の生活や人生観に触れる中で看護の必要性や顕在的問題だけでなく潜在的問題を予測し、必要となる支援に繋げていくことが重要であると学びました。さらに、自分自身の将来像や医療職としてあるべき姿についてこれまでたくさん悩み、迷いましたが看護や保健師の実習で実際に現場を見て、その方と触れ合えたことでひとりの人にとってのベストを追求し、そのためにはきっかけや助けを与えられ、必要な時に頼れる存在でありたいと考えるようになりました。

そして、大学生活を送る上で、たくさんの方々との繋がりができたことが私自身大きな宝物です。1・2年生の頃は十分に部活動を行うことは叶いませんでしたが、4年間の中で東医体も経験することができました。さらに、辛い時期を乗り越えることができたのは、どんな時でも笑顔にしてくれた友人や保健師過程の6人、そして同期や先輩・後輩、どんなに弱音を吐いてもいつもそばで支えてくれた家族の存在があったからだと実感しています。

卒業後は、新たなまちで市町村保健師として勤めます。4年間での経験と学びを活かし地域住民の方々との繋がりを大切にしながら、一人ひとりに寄り添える保健師となれるよう精進して参ります。

最後になりますが、いつも見守り丁寧にご指導くださった教職員の皆様、実習を引き受けてくださった関係者の皆様には貴重な経験をさせていただいたことに深く感謝申し上げます。これまでお世話になった全ての皆様、ありがとうございました。

卒業にあたって

看護学科第25期生 吉岡葉月



旭川医科大学に入学してから早くも4年経ち、卒業を迎えることとなりました。大きな不安と期待を抱えながら始まった大学生活は、コロナ禍ということもあり、多くの制限がなされていました。そのような状況の中でも、多くの仲間と出会い、たくさんの学びを得ることができました。

入学した時は、コロナ禍でオンライン授業が主要となっており、新しい仲間に出会うことも学校に行くこともできませんでした。私は地元が離れているため、新しい環境で一人暮らしを始めたばかりで頼れる人も近くにおらず、不安を抱えながら過ごした1年生でした。2年生になると、徐々に仲間たちと顔を合わせる機会も多くなり、頼れる友人に出会うこともできました。3年生になると、対面授業が増え、やっと大学生活が始まったと実感でき、看護の学習もより深いものとなっていきました。4年生になると、これまでの学習が実践に繋がるということを実習で実感し、より看護を深めたいと思いました。

この4年間、実習や課題が辛いと思うこともありましたが、今振り返るととても素晴らしい経験をさせていただいたなと感じています。4年間は長いように感じますが、意外とあっという間に過ぎてしまいます。在校生の皆さんは日々の学び、経験を大切に楽しい大学生活を送ってほしいと思います。また4年間を通して、実習や国家試験勉強など、常に支え合ってきた仲間の存在はとても大きなものであると感じています。そのため、友人や家族との時間も大切に、今しかできないことを大切にしてほしいと思います。

最後に、新型コロナウイルスが蔓延し、医療機関での制限が必要となる中でも、実習を引き受けて下さった医療従事者の皆さま、受け持ちに同意して下さった方々に深く感謝申し上げます。4年間の実習で学んだことを自分の強みとして、学習を怠らず、広く社会に貢献できるような看護師になれるよう精進していきたいと思っています。



退職の御挨拶

保健管理センター

特命教授 川村 祐一郎

正確に言うと、私はすでに2022年3月31日をもって保健管理センター教授を定年退職した身であります。この退職の辞令は松野丈夫学長職務代理（当時）より拝受しました。その翌日即ち2022年4月1日、今度は「保健管理センター特命教授」の辞令を頂きました。これは西川祐司新学長からで、学長就任初日のお仕事の1つでありました。まさに当時の変遷を描出するエピソードのような気がします。この度は、その特命教授もいよいよ終了するというので、一筆啓上申し上げます。

私が退職を迎えながらもなお大学に残留していた理由は、端的に言えば、保健管理センターの後任が未定なので決まるまでの「つなぎ」をせよという意味でしたが、この頃まさにCOVID-19が猖獗を極め、さらにはメンタル面での学生や職員の健康が必ずしも万全とは言えない中、健康管理部署として保健管理センターをさらに充実すること、そのためには長くここの経緯を知る人間を残したい（ちなみに長年一緒に活動していた藤尾美登世保健師、および多岐にわたりセンター業務を支えて下さった佐々木めぐみ事務補助員も2022年にご退職され、後任として現在の酒井明奈・石崎美和両保健師と交代致しました）という大学の意図もあったであろうと思います。

2004年にセンター専任医師、2009年よりは所長（現・センター長）を拝命し、学生の健康管理に携わってきた上での2本柱は感染症対策とメンタル対応でした。前者では、2009H1N1ウイルスの流行（当時豚インフルとか、新型インフルとか呼ばれていました）と上述のCOVID-19の流行が印象深く、これらへの対応として、健康チェックシートの提出指示および公欠制度の活用を行いました。これは実業務としてはかなり大変なもので、私のみならず全てのスタッフが相当疲弊しました。メンタル対応については、私が素人であるだけに保健師の皆様に任せっぱなしで大変苦勞をおかけ致しました。2022年10月より非常勤ながらカウンセラーの方々の派遣を受けることにより、対応に厚みが出てきたように感じます。

私は旭川医科大学産業医も併任し、職員の健康相談、休職・復職時の指導、過重労働者への指導、職場環境の是正等に当たって参りました。安全衛生委員会のメンバーとして、定期的な職場巡回である安全衛生パトロールに参加し、2016年より開始されたストレスチェックにおける高ストレス者との面談に応じて参りました。産業医業務と直接

関係はありませんが、近年増加の傾向にある各種ハラスメント問題については、ハラスメント防止対策委員会の一員としてしばしば対応いたしました。

このように学生、および職員への対応に身を割いてきたわけですが、私は本来循環器内科医でありまして、卒業した1981年4月に第一内科（故・小野寺壮吉教授）に入局を許されて以来国内で研鑽を積み、その後、主に海外留学において習得した不整脈診療上の技術・知見を活かすべく、旭川医科大学病院循環器内科に不整脈チームを設立し、特に頻脈性不整脈の根治術であるカテーテルアブレーション、および植え込み型除細動器やペースメーカーなどデバイスによる心疾患治療の発展に寄与し、不整脈分野でのいくつかの実験的および臨床研究も成し遂げてまいりました。このことは私の人生における極めて大きな財産です。退職後も何らかの形で循環器疾患患者、中でも不整脈患者の診療を継続していくことになると思いますが、これら積み上げてきた研究的知見を土台に、さらに自己研鑽を重ね成長して参りたいと考えております。

学生の感染症およびメンタルの問題、また労働安全管理の面からは2024年4月より本格化する「医師の働き方改革」など、私がこれまで勤務してきた分野における課題はおそらく今後も永続・拡大していくことと思えます。また、不整脈治療の面では、カテーテルアブレーション、特に心房細動に対するそれは近年発展の一途をたどっており、さらなる技術およびマネジメントの向上が要求されることでしょう。これらについては、未来を担う若い諸君にゆだね、期待を持ちつつ大学を去りたいと思えます。

御存知の方も多いと思えますが、私は在任中の2014年に大変大きな病に罹患致しました。今、ここで無事退職を迎えられることは一種の奇跡と思っております。この間の業務を支えて下さった各方面の方々、私の身を気遣って下さった多くの皆様に深い感謝の念を申し述べ、筆を擱きたいと存じます。皆様、真に有難う御座いました。



定年退職にあたって ～ 組織はジグソーパズル、 能力は団体に存在する～

皮膚科学講座

教授 山本 明 美

私は1977年、5期生として旭川医科大学医学部医学科に入学、1983年に卒業し、本年3月に退職するまで、40年余り旭川医科大学皮膚科学講座とその関連病院（旭川厚生病院、市立稚内病院）で皮膚科医師として臨床、研究、教育に従事してきました。学生時代は弓道部の活動やアルバイトに励み、学友たちと楽しく過ごしました。当時は100人の同期のうち女性はわずか10人、どの科の教官も男性で身近なロールモデルはおらず、今とは隔世の感があります。卒業後皮膚科医になろうと思ったのは、皮膚病理組織の顕微鏡像や皮疹の形態的な特徴から診断が分かるのが楽しいと思ったから、というわりと単純な理由でした。高校時代は美術部に入っていましたし、大学の組織学実習も苦にはならず、五感の中では視覚が優位だったのだと思います。振り返ってもこの選択は間違っていなかったと思うので、自分の専門分野や研究テーマを決めるときにはストレス無く取り組めるものを選ぶのが良いのではと思います。

1987年から2年間、大阪大学医学部解剖学第2講座にて皮膚に分布する末梢神経の研究に、その後2年間、英国ロンドン大学セント・トーマス病院のRobin Eady教授の研究室で遺伝性皮膚疾患の超微細構造の研究に従事しました。国内・外の施設への留学経験は異文化との出会いで、貴重な人生経験となりました。外から見ることによって母校や母国の長所と短所がより明確になりました。まだ留学されたことが無い方は、ぜひ、一度はホームからアウェイにでてみることを強くお勧めします。

2014年の7月に教授職を拝命し、教室運営の他、学年担任、弓道部の顧問、卒後臨床研修センターのセンター長、研修プログラム責任者、復職・子育て・介護支援センター（二輪草センター）センター長、本学医学部同窓会の会長などを務めました。色々な役職を経験する中で様々な立場の意見を理解することができて視野が広がり、人間的にも成長できたと思います。立場が変わると違う高さからものを見るようなもので、同じものがそれまでと違って見えることがあります。社会全体を考えると、一時的な不自由があってもこれは変えていかなければならないと気づくこともあるでしょう。部下の立場では不満を言うだけだったのが、リーダーの立場になると裁量権が大きくなり、組織を望ましい方向に変えることもできます。部下を指導する立場になると自分の知識や技術の正しさも再確認、アップデートする必要に迫られて勉強になりますし、部下の成長が

自己肯定感を高めることにつながるのでお勧めです。

かつて臨床講座の教授といえば「白い巨塔」のドラマで描かれているような強いリーダーシップを持つ存在で、その発言は絶対的権威をもち、教室運営は比較的容易だったと想像します（教室員が幸福だったかどうかは別として）。しかし今は個人の自由が尊重される時代となり、部下が働きやすい環境を整えるサーバント型のリーダーが必要とされる時代だと考え、私もその役割をはたすように務めました。特に重視したのは組織の心理的安全性です。皆と異なる意見を言っても良い、言いにくいことも言える場にしたと考えました。そのためにまず行ったことは自己開示で、自分の不得意分野や知らないことを教室員に開示することから始めました。そうすると不思議と組織内に他の人の不得意分野をカバーできる人材が現れると思っけていますし、実際にそうなってきました。自分の所属するチームが総体として最大の力を発揮できれば良いし、そうなることで各メンバーが個々の存在意義を実感することができ組織への帰属意識も強くなると考えています。目標とすること、常に心がけたいことは紙に書いてすぐ目に付くところに貼っておくと良いと聞いたので、教授就任後「組織はジグソーパズル。能力は団体に存在する」と書いた付箋を職場の机上のPC画面の下に貼っていました。この付箋もはがして退職する時がやってきました。私が抜けた後のピースは誰かが自然と埋めてくれるでしょう。本学関係者の皆様のご健勝とご活躍をお祈りして退職の挨拶とさせていただきます。職員、教員の皆様には長年お世話になり本当にありがとうございました。



定年退職にあたって — 旭川医大での19年の思い出 —

腎泌尿器外科学講座

教授 柿崎 秀宏

2024年3月末で旭川医大を定年退職します。私は、2005年6月10日に旭川医大に赴任しましたので、約19年間勤務したことになります。当時の学長であった八竹直先生から辞令をいただき、旭川医大での仕事が始まりました。教室員が揃うカンファレンスルームで、胸の高鳴りを抑えながら教室運営の抱負を述べたことを今も鮮明に思い出します。

私は1983年3月に北海道大学医学部を卒業し、北海道大学泌尿器科学教室（現 腎泌尿器外科学教室）に入局しました。大学病院および関連病院での研鑽を経て、1994年から2年間米国ペンシルベニア州ピッツバーグ大学に研究留学しました。ピッツバーグ大学では、神経生理学・神経薬理学の分野の研究に従事しました。帰国後は泌尿器科臨床の幅を広げ、下部尿路機能障害（排尿障害）・小児泌尿器科・尿路再建・腹腔鏡手術などにおいて経験を積み重ねました。

教室の初代教授であった黒田一秀先生（2015年9月5日ご逝去、享年95歳）は、日本排尿機能学会の名誉会長でもありました。教室の第2代教授の八竹直先生も下部尿路機能障害をご専門の一つとされていました。両先生と同じように下部尿路機能障害を専門の一つとする私が旭川医大に赴任することになったのも、何か運命的な力が働いたように思います。

旭川医大に赴任した当時、以下の3つの目標を立てました。

- (1) 腎泌尿器外科としての貢献
- (2) 地域医療との連携
- (3) 国内のみならず世界に向けての情報発信

1番目の目標は、十分達成できたと自負しています。2014年2月にda Vinciを使ったロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術が開始され、その後ロボット支援手術の適用が拡大されてきました。今後も手術経験を増やし、高いレベルで手術を遂行するよう努力を重ねて欲しいと思います。2番目の目標に関してはそれなりに達成できたと思っています。大学で経験を積んだ医師が関連病院の泌尿器科トップとなり、若手医師の育成を担ってくれています。ただし、泌尿器科医が一人体制の病院、泌尿器科の常勤医がいない病院もいくつかあり、私の在任中はこれらの病院への医師派遣が十分にはできませんで

した。今後は関連病院をさらに充実させ、多施設共同研究を実施できるような協力体制を構築して欲しいと思います。3番目の目標である世界に向けての情報発信に関しては、達成度は十分ではなかったと自省しています。国際学会での発表、英語論文の投稿、海外留学を若いうちから推奨し、世界に情報発信できる人材を育成して欲しいと心から願っています。

個人的な学術活動として、私は2011年から2015年の4年間、日本泌尿器科学会（JUA）の理事を担当し、前半の2年間は国際委員長を務めました。この2年間は、米国泌尿器科学会（AUA）、欧州泌尿器科学会（EAU）に毎回出席し、AUAやEAUとのjoint programの企画を担当していたこともあり、大変多忙な2年間でした。2000年から理事を務めていた日本排尿機能学会に関しては、副理事長、事務局長を歴任した後、2020年から2年間理事長を務めました。英文学術雑誌で、Pan-Pacific Continence SocietyのOfficial journalでもあるLUTS誌の編集長を2021年5月から担当しており、年300編以上投稿されてくる論文に目を通し、査読作業に回しています。2023年秋に国際禁制学会（ICS）から委嘱理事のオファーがあり、引き受けることにしました。このように、まだしばらくは学術活動に従事する予定です。

私は医学生時代はアイスホッケー部に所属し、卒業後も現在までアイスホッケーを続けてきました。2012年からは旭川医大アイスホッケー部の顧問となり、学生諸君と一緒にアイスホッケーを楽しんできました。2007年11月に札幌で学生大会があった際には、14名ほどの部員が札幌の私の自宅に泊まり、楽しい思い出となっています。

8階にある教授室の窓からは大雪山系が遠望でき、晴れた日には旭岳がよく見えます。疲れた時や行き詰った時、あるいは仕事の合間に旭岳を眺めてきました。この風景とも近いうちにお別れかと思うと、少し寂しい気がします。開学および開講50周年の節目にあたり、大学も腎泌尿器外科学教室も共に発展していくことを願うばかりです。

令和5年度退職に伴う最終講義が行われました

令和6年3月31日をもって本学を退職される4名による最終講義が実施されました。講義では、長年にわたる教育・研究活動などを振り返りながら想いを込めて語られました。

各講義とも多くの学生や教職員の他、大学関係者などが熱心に聴講していました。講義終了後には、感謝の思いを込めて花束が贈呈され、大きな拍手が送られました。

先生方のこれまでのご尽力に、学生、教職員、卒業生一同心から感謝するとともに、今後のご活躍とご健勝をお祈りいたします。

《内科学講座(消化器内科学分野) 奥村 利勝 教授》

講義題目：「病は気から」を科学する

－総合診療部そして第3内科，旭川医大40年－

開催日時：令和6年3月5日(火) 15:30から



《腎泌尿器外科学講座 柿崎 秀宏 教授》

講義題目：旭川医科大学における19年の軌跡：腎泌尿器外科の変遷

開催日時：令和6年3月15日(金) 16:00から



《保健管理センター 川村 祐一郎 特命教授》

講義題目：不整脈とわたし，ホケカンとわたし

開催日時：令和6年3月19日(火) 15:30から



《皮膚科学講座 山本 明美 教授》

講義題目：キャリアからの学びとおすすめコーチングスキル

開催日時：令和6年3月21日(木) 15:30から





教授就任のご挨拶

一般教育 社会学
教授 工藤 直志

このたび、2024年（令和6年）1月1日付で、旭川医科大学社会学の教授を拝命いたしました。1973年9月の本学設置と同時に開設された学科目「社会学」の教授を務めることは、私にとって身に余る光栄であり、同時にその重責に身の引き締まる思いです。

簡単に自己紹介をさせていただきます。出身は大阪府堺市で、小学校、中学校、高等学校、大学・大学院までを大阪で過ごしました。大阪もしくは関西地方でこのまま過ごすことになりそうと思っていたところ、指導教員のお力添えもあり金沢大学で研究員として勤務することになり大阪を離れました。その後、福井県に移り民間企業で研究員として務めたのちに、ご縁をいただきまして2016年4月に旭川医科大学の講師として着任いたしました。

本学に着任するまで旭川を訪れたことはありませんでした。新鮮な気持ちで勤務をはじめましたが、やはり寒さが厳しい場所での生活には不安を感じていました。着任して1年目の10月末には雪がうっすらと積もったことで、本格的な冬の到来をまえにしますます不安になったことを記憶しています。いろいろな方からご助言・ご支援をいただき、冬の寒さを除けば今ではすっかり旭川になじんでおります。およそ8年間の年月を過ごすうちに愛着も感じるようになり、旭川の未来に少しでも貢献したいと考えるようになりました。そのような思いもあり、学内での教育・研究活動などに従事するとともに、旭川ウェルビーイング・コンソーシアム（AWBC）の委員を務めたり旭川市総合戦略検討懇談会に参加したりするなど、学外での活動にも積極的に参加するようしております。

本学の教育では、医学科の医療社会学と医療社会学実習、看護学科の看護社会論などの必修科目を担当しています。どの科目でも専門とする社会学にもとづいた内容を学生に伝えることを心がけています。社会の高齢化や自己決定の尊重などを背景として、患者さんとそのご家族の生活のスタイルや病気への考え方が深く関わる問題（延命治療、インフォームド・コンセントなど）への対応が医療者には求められています。このような問題と向き合うためには、患者さんのことを幅広い視点から理解していく必要があります。患者さんを理解するためには、人間関係やコミュニケーションなども研究対象とする社会学の視点も役に立つはずで、医療現場で生じる問題を患者さんの立場からも

考えるために、社会学の基本的な思考法を身につけてもらうように心を砕いて授業を進めています。

上記で述べましたように社会学を専門としています。社会学は人間と人間の関わり、人間の集団を研究領域とする守備範囲の広い専門分野です。大学院生の頃から新しい医学知識・技術が社会に与える影響を把握すること、新しい医学知識・技術が私たちの社会をどのように変えるのかを解明することを研究テーマとしてきました。具体的には、インタビュー調査やアンケート調査を用いて、臓器移植という治療方法、遺伝カウンセリングという手法、電子カルテの医療現場への導入、発達障害についての知識や認識などを研究してきました。最近では動物の臓器を人間に移植するという異種移植の社会的課題の調査・研究を行っています。

これまで多くの方々に支えていただくことで教育や研究に従事できております。研究のご指導をいただいた諸先生や調査に快くご協力をいただいた方々など、これまでに関わりがあったすべてのみなさまにあらためて感謝申し上げます。本学に奉職してから研究・教育・教務を大きなトラブルもなく担えておりますのも、旭川医科大学の諸先生や事務職員の方々の温情のおかげです。これまでに賜ったご厚情には、まずは次世代の医療者の教育にこれまで以上に取り組むことで報いていきたいと思っております。浅学非才の身ではありますが、旭川医科大学の更なる発展のために努力精進いたす所存です。今後ともご指導とご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



就任のご挨拶

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

教授 高原 幹

この度、令和6年(2024年)1月1日付けで、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の教授を拝命いたしました高原 幹と申します。当講座は1976年に初代教授 海野徳二先生が開講され、本講座の礎が築かれました。その後、1998年に二代目教授として原淵保明先生が就任され、更なる飛躍的発展を遂げました。2022年にご定年を迎えられ、三代目として私が昇任致しました。伝統ある旭川医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座を主催していくことは身に余る光栄であり、同時にその責務の重さに身の引き締まる思いであります。

私は十勝の北海道足寄郡足寄町出身です。同年代の方であれば松山千春の出身地と云えば理解していただけると思いますが、若い方は難しいかもしれません。ちなみに、ご挨拶をさせて頂いた際に、旭川医科大学副学長で生化学講座教授の川辺淳一先生、教育センター・地域医療教育学教授の野津司先生が同郷であることをお教え頂き、その密度の高さに非常に驚きました。その後、函館ラサール高校を経て、旭川医科大学に16期生として1988年に入学させて頂きました。学生時代は剣道部を主軸にゴルフ部、合唱部にも在籍し、大変充実した、忙しい学生生活を送ることができました。その時の仲間は今でも交流があり、症例の相談など本当にお世話になっております。これは、たいへん大きなかけがえのない財産で、学生時代には予想しておりませんでした。学生の皆様も、その繋がりを大切になさって下さい。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科は当初は選択肢に入っておりませんでした。剣道部繋がりによる熱い勧誘と熱意に絆され、1994年に入局させて頂きました。入局後は耳鼻咽喉科・頭頸部外科の多様さと奥深さに魅了され、初期研修から関連病院での6年間はその臨床にどっぷりと浸かりました。転機が訪れたのは大学に戻ってからであり、原淵教授の強力な教室運営のもと、多くの良き指導者に恵まれ、様々な経験を積ませて頂きました。臨床的な側面だけではなく、研究、教育、発表、管理、運営、留学など多岐に渡り、現在の私の血肉となっております。ご指導頂いた先生方には感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科は文字通り、耳・鼻・口腔・咽頭・喉頭・唾液腺・甲状腺・頸部の広大な領域を対象としております。それらの領域は、聴覚・平衡・嗅覚・味覚・

発声・呼吸・嚥下など生命の維持や質の保持に必要な多くの機能を担っております。我々はその機能障害の回避や回復を念頭に、治療を進めて行かねばなりません。そのバランスは疾患の性格により様々で、特に悪性腫瘍などは機能維持を優先するあまり、再発等をきたしてしまうことは避けねばなりません。当科では聴力障害を人工臓器にて改善する人工内耳手術や形成外科の先生方と共同して頭頸部癌根治的手術と遊離再建手術を行っており、そのバランスを保ちつつ、機能維持・回復に努めております。それ以外にも、内視鏡下耳科手術、内視鏡補助下甲状腺手術、内視鏡下唾石手術など先端的鏡視下手術も取り入れており、患者様のニーズにできるだけ応えることができるよう努力しております。また、研究では、近年、再発転移頭頸部癌に対して免疫治療剤が複数適応となり、注目されておりますが、我々は以前から頭頸部癌の免疫学的解析を精力的に行っており、将来的に臨床応用可能な知見を数多く得ております。さらに、扁桃病巣疾患に関する基礎的、臨床的研究は当科の命題として継続しており、国際的にもトップレベルにあると自負しております。

当教室は年齢的に若いスタッフで構成されていますが、私が自慢できるやる気のある優秀なスタッフが揃っております。彼らとともに、臨床・研究にアクティビティーの高い、熱い情熱と誠意に満ちあふれた教室運営を行って参ります。今後とも、我々耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座へご指導・ご鞭撻を賜れますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

第11回医学科白衣式

令和6年1月11日(木)本学看護学科棟大講義室において、医学科白衣式を執り行いました。医学科白衣式は、臨床実習を目前に控える医学科第4学年を対象に、これから医療者の一員として、社会に貢献する立場になることを再認識させるなど、「医師としてのプロフェッショナルリズムを涵養する」ことを目的として行っています。

式典では、西川学長から学生へ祝福と激励、さらに「医師としてのプロフェッショナルリズム」についてお話がありました。

続く、白衣の授与にあたっては、西川学長をはじめ6名の先生方が白衣プレゼンターとなり、参加した学生1人1人へ袖に本学のブランドマークと学生の氏名が刺繍された白衣を着せました。白衣プレゼンターからの祝福や激励の声に、白衣を授与された学生たちが笑顔でこたえる様子が見られました。

式の最後には、学生全員による〔48期生誓いの言葉〕の斉唱が行われました。誓いの言葉には学生が考えた医療人としての目標があげられました。

学生たちは誓いの言葉で目標とした医療人を目指し、新たな一歩を踏み出します。

〔48期生誓いの言葉〕

私たちは、生命を尊重し、誠心誠意医療に取り組みます。

高い倫理観と責任感をもって全人的医療を提供できる医師を目指します。

生涯にわたり医学的知識と技術の向上に努めます。

患者さんや多職種の方との信頼関係を築き、チーム医療を実践できるよう努力を重ねます。

医学・医療に携わる全ての人に感謝の気持ちを持ち、信頼される医療人となることを

ここに誓います。



学生表彰を行いました

本学では課外活動、社会活動、学術研究活動等で特に顕著な成果をあげた学生及び学生団体に学生表彰を行っています。

令和6年3月21日(木)学長室において、2団体、個人5名への学生表彰が行われ、西川学長から功績を称えて表彰状が授与されました。

受賞者の一覧は以下のとおりです。

== 課外活動による表彰 ==

団体名・氏名	大会	成績
バドミントン部	第66回東日本医科学生総合体育大会	バドミントン競技 男子団体 準優勝
	第66回東日本医科学生総合体育大会	バドミントン競技 女子団体 準優勝
医学科第5学年 川端 美結 (雪艇倶楽部)	令和5年度 日本カヌーフリースタイル選手権大会(2023カヌーフリースタイル・世界選手権派遣選手選考会)	女子K-1 予選決勝 第4位
	2023 ICF (Internashional Canoe Federation) Freestyle World Championship	第35位
医学科第3学年 加々見政虎 (水泳部)	第26回北海道学生水泳記録会	男子100m自由形 第3位
医学科第6学年 竹内 杏 (バドミントン部)	第66回東日本医科学生総合体大会	バドミントン競技 女子シングルス 準優勝
医学科第6学年 竹内 杏 (バドミントン部)	第66回東日本医科学生総合体育大会	バドミントン競技 女子ダブルス 準優勝
医学科第3学年 籠川 凜花 (バドミントン部)		

== 社会活動による表彰 ==

氏名	功績
医eスポーツ大会部	本院小児病棟に長期入院している小児患者に定期的なオンラインゲーム大会の開催及びVRでのスキューバダイビング体験などの提供を通して患者を気遣う活動が報道に取り上げられ社会的に評価を得られました。

== 学術研究活動による表彰 ==

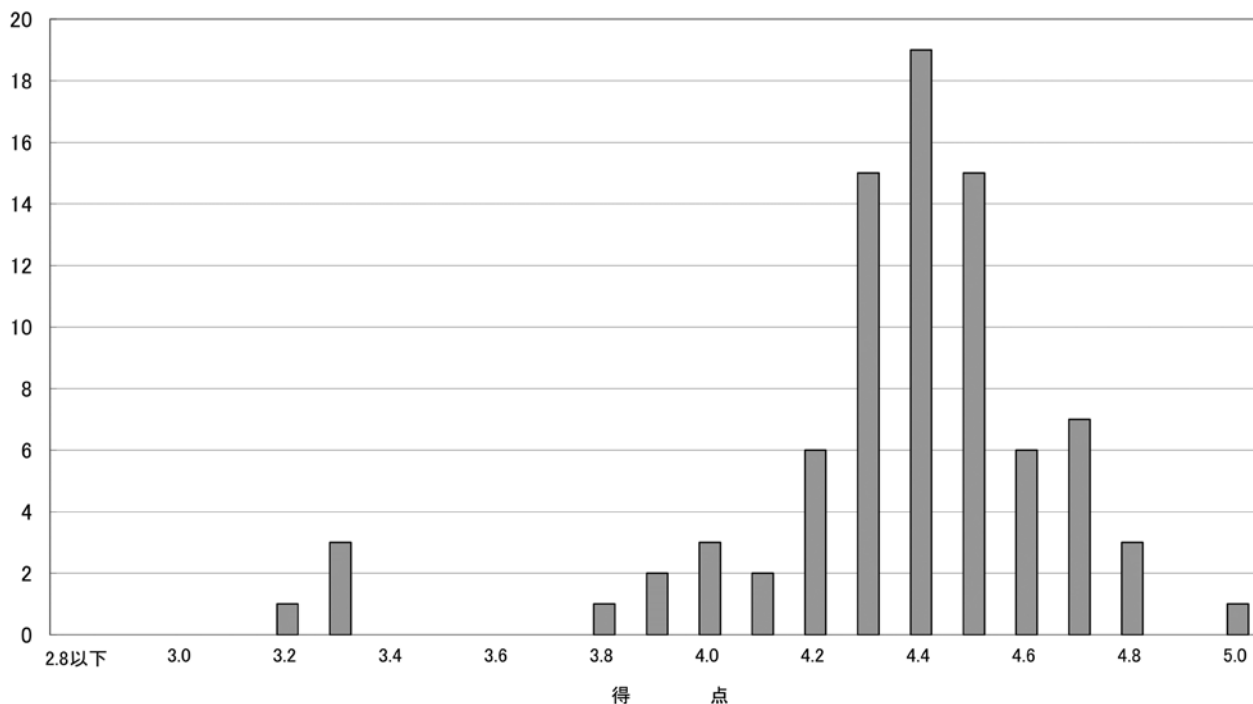
氏名	功績
医学科第5学年 川田 栞寧	令和5年9月9日～10日に開催された第6回北海道外科関連学会機構合同学術集会において学生セッション1で最優秀賞を獲得されました。



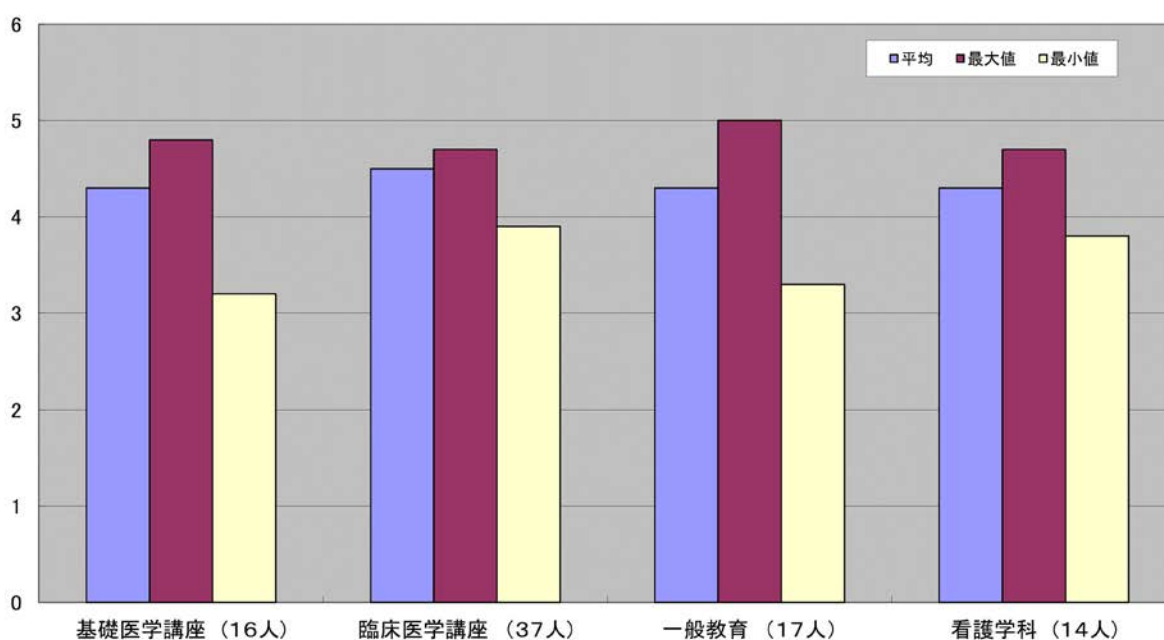
2023年度前期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

人数	得点																						
	2.8以下	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0
					1	3					1	2	3	2	6	15	19	15	6	7	3		1

(実施人数 84・平均 4.4)



部局別教員の平均点と最高・最低点



2023年度前期「企画に対する学生評価」

科目全体の講義企画に対する学生評価

地域医療学、看護英語文献講読、がん看護学Ⅱ（がんサバイバーシップ）以外

あなたの履修態度・理解度について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。
	問2 授業に毎回出席しましたか。
	問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。
	問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
目的の達成	問5 科目全体の到達目標を最終的に達成することができましたか。
科目内容	問6 あなたにとって科目全体の難易度は適切でしたか。
	問7 科目を履修することで、今後の学習意欲は増えましたか。
総合評価	問8 この科目は全体として満足できるものでしたか。

地域医療学、看護英語文献講読、がん看護学Ⅱ（がんサバイバーシップ）

あなたの履修態度・理解度について	問1 事前に教科書や講義資料を読むなど予習をしましたか。
	問2 この科目はどのくらい理解できましたか？
	問3 授業の復習を毎回しましたか。
目的の達成	問4 科目の一般目標を達成することができましたか。
科目内容	問5 あなたにとって科目全体の難易度は適切でしたか。
総合評価	問6 この科目は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
 ④ やや思う (良い)
 ③ どちらとも言えない (普通)
 ② あまりそう思わない (あまり良くない)
 ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：自然科学入門（物理系）（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：10 配付数：10 回収数：10 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	5.0	4.6	3.9	4.0	3.3	3.8	4.2

＊評価に対するコメント

自然科学入門（物理系） 担当教員

総合評点は4.2点であり昨年度より0.4ポイント上昇した。個別の設定問では、問3と問5の項目が例年と比較して高く、学生自身の理解するための努力が科目に対する満足度の上昇につながったことが伺える。今後の学習につなげてもらえればと思う。

科目名：自然科学入門（生物系）（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：85 配付数：80 回収数：80 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.9	4.2	3.4	4.0	4.3	4.2	4.6

＊評価に対するコメント

自然科学入門（生物系） 担当教員

本科目の目的は生物学の基礎知識や思考力を身につけることです。講義は1コマ60分のうち講義を40分、質問対応を10分とし、残りを小テストとしました。質問は毎回回り活発でした。学生には講義のはじめに、復習による、知識の定着と知識同士の関連付けが重要であると伝えましたが、復習の項目（問4）は3.4と低い評価でした。来年度は、復習を促すような対策を講じたいと思います。

科目名：地域医療学（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：95 配付数：95 回収数：74 回収率：77.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	4.2	2.9	4.0	4.3	4.4

＊評価に対するコメント

地域医療学 担当教員

科目の満足度、理解度が4.4及び4.2と極めて高く、1年生の臨床医学を早くから学びたいというニーズをとらえていると判断している。このままの形式で、来年度も行いたい。

科目名：医療概論Ⅰ（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：94 配付数：91 回収数：91 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.4	4.7	4.0	3.5	3.8	4.1	4.0	4.1

＊評価に対するコメント

医療概論Ⅰ 担当教員

本講義は、医療に通底している哲学的テーマについて「思考する」ことを目的としている。今年度は対面で学生と意見を交わすことができ、それぞれがより「思考」を深めることができたように思う。今後の医学・臨床の学びに活かしてくれることを期待する。

科目名：基礎生物学（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：97 配付数：89 回収数：88 回収率：98.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.4	3.9	3.4	3.9	3.7	4.1	4.2

＊評価に対するコメント

基礎生物学 担当教員

本年度の「基礎生物学」は、令和4年度までの講義担当者1名の退職のため、講義内容の再検討を兼ねて新たに講義資料を作成しました。学生からは講義資料にもう少し文章で説明があると学修しやすい、というコメントをいただきました。講義内容の文章化につきまじ SARS-CoV-2 感染拡大期に作成した e ラーニング資料を同時に manaba 上で公開しておりましたが、新しく作成した資料分については作成していなかったため、来年度は作成する予定です。

科目名：統計学（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：95 配付数：85 回収数：85 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.4	3.5	3.0	3.2	2.9	3.0	3.3

＊評価に対するコメント

統計学 担当教員

問6の講義内容、特に講義資料について難しいという意見が多かったです。事前に講義資料を manaba にアップしていましたが、難しいと感じてしまい問1の学習意欲に影響していたように思われます。次年度ではより理解が深まるような内容に改善できればと思います。その上で、予習、復習の重要性を伝えていければと思います。全国のどの大学でも、1単位につき45時間の学習が必要です（文部科学省）。この講義は1単位15回なので30時間を予習、復習に充てなければならないということです。講義について、分からないことや質問があればどんどんしてください。

科目名：情報リテラシー（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：93 配付数：89 回収数：89 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	4.6	4.1	2.7	3.7	3.8	3.7	3.9

＊評価に対するコメント

情報リテラシー 担当教員

The students attending the lectures had a roughly normal distribution of learning ability ranging from high to low learning ability. The pace of the lecture is standard, but whether you feel it is fast or slow depends on your personal ability. You need to understand that fact. This is because 15 hours of lecture time is not enough, as you need to prepare and review the textbook on your own, regardless of your learning ability.

科目名：心理学（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：94 配付数：93 回収数：93 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.4	4.7	3.8	2.6	3.7	3.9	4.1	4.3

＊評価に対するコメント

心理学 担当教員

オンラインを活用した前年度とは異なり、今年度はスライドとハンドアウトを用いた対面講義を実施した。ポイントごとに短い動画教材を併用し、心理学に対する理解を具体的なものにできるよう心掛けた。自由記載でも「具体的なイメージが湧きやすかった」とのコメントがあった。一方で、心理学の扱うテーマが多岐にわたっていることから、「試験対策が大変」とのコメントも見られた。来年度は小テスト等を活用しながら、こまめな振り返りが出来るように改善していきたい。

科目名：数学（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：94 配付数：90 回収数：87 回収率：96.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.4	3.8	3.2	3.4	3.0	3.1	3.4

＊評価に対するコメント

数学 担当教員

講義資料の一部（例題）の解答も載せて欲しいという意見がありました。例題については講義中に全て解説していますので、十分だと感じます。とはいえ、事前に解答がないことで学習意欲が削がれている可能性もあるので、来年度は解答を載せ、内容も充実させたいです。内容を難しいと感じるのは初学者なので無理ありません。ただ、講義だけで履修内容を全て理解することは極めて困難です。実際に自分で手を動かすこと、疑問点を洗い出し、理解に何が足りないかを把握して講義に臨んでください。数学ではこうした地道な努力の先に内容の理解があります。また分からないことがあればぜひ質問してください。

科目名：初年次セミナー（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：93 配付数：93 回収数：90 回収率：96.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.4	3.9	3.5	3.8	3.7	3.4	3.6

＊評価に対するコメント

初年次セミナー 担当教員

満足度3.6（回収率96.8%）で多くの学生に有用な内容であったと考えています。アカデミックライティングを中心として、本学のLMS（manaba）に慣れてもらうことと、大学教員・職員と円滑に連絡を取れるようにICT環境の設定を行いました。上級学年での学修状況を見るとまだまだ授業の改善が必要です。今後も授業に関する質疑応答・授業評価で建設的な意見を待ち望みます。

科目名：医療社会学（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：97 配付数：85 回収数：81 回収率：95.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.5	3.7	3.1	3.8	4.0	3.9	4.1

＊評価に対するコメント

医療社会学 担当教員

今年度は、受講生の全員が対面で授業を受けるという形式で授業を行いました。全員が対面で受講することもあり、今年度は映像資料なども活用して患者とのコミュニケーションに関する内容を新しく取り入れました。新しい内容によって学生の興味や関心が喚起されたようですが、内容が難しい、わかりにくいといったコメントもありました。学生からのコメントも参考にして、次年度は内容を洗練させることで、より良い授業となるように努めます。

科目名：機能形態基礎医学Ⅰ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：101 配付数：100 回収数：82 回収率：82.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.6	4.0	4.1	3.6	3.7	3.1	4.1	4.0

＊評価に対するコメント

機能形態基礎医学Ⅰ 担当教員

この3年間のCOVID-19感染対策で培ったノウハウを活かして、本年度は講義室での対面授業と学修支援システムmanaba上でのオンライン授業の併用という形でこの科目を実施した。manabaで配布している当講座作成のオンライン学習用資料については受講学生から好評価を頂いており、来年度も更に内容を充実させ活用していきたいと考えている。

科目名：生化学Ⅰ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：97 配付数：96 回収数：84 回収率：87.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.3	3.9	3.4	3.8	3.8	3.8	4.0

＊評価に対するコメント

生化学Ⅰ 担当教員

医学2年の本格的な医学系講義は生化学から始まる。冒頭に、臨床との繋がりとしての基礎医学の意義を概説し、学習モチベーションをあげてもらいつつ、医学部での勉強の仕方を、昨年同様に講義導入に加えしました。本講義のメインである「代謝」は、最終的に、糖、脂質、タンパク代謝のすべてを統合的に理解しなければ、臨床医学にも応用できない点を強調し、それぞれの代謝各論に「横櫓」をいれた復習を兼ねた「統合代謝」講義を最終に加えた。聴講した学生の多くから興味深く学べた、わかりやすかったという評価を得る一方、医学2全体の講義量の多さに対応できず？理解度の低い群と二極化しておりました。今年度の学生評価や試験結果なども参考にし、ひきつづき、学生が満足できるよう、教員側もポイントを押さえたメリハリのある講義内容や講義資料の改良を不断に続けていきたいと思ひます。

科目名：生化学Ⅱ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：97 配付数：97 回収数：89 回収率：91.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.1	3.8	3.4	3.8	3.8	4.0	4.1

＊評価に対するコメント

生化学Ⅱ 担当教員

医学2年の本格的な医学系講義は生化学から始まる。冒頭に、臨床との繋がりとしての基礎医学の意義を概説し、学習モチベーションをあげてもらいつつ、医学部での勉強の仕方を、昨年同様に講義導入に加えしました。本講義のメインである「代謝」は、最終的に、糖、脂質、タンパク代謝のすべてを統合的に理解しなければ、臨床医学にも応用できない点を強調し、それぞれの代謝各論に「横櫓」をいれた復習を兼ねた「統合代謝」講義を最終に加えた。聴講した学生の多くから興味深く学べた、わかりやすかったという評価を得る一方、医学2全体の講義量の多さに対応できず？理解度の低い群と二極化しておりました。今年度の学生評価や試験結果なども参考にし、ひきつづき、学生が満足できるよう、教員側もポイントを押さえたメリハリのある講義内容や講義資料の改良を不断に続けていきたいと思ひます。

科目名：免疫学（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：100 配付数：81 回収数：65 回収率：80.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.6	4.0	3.3	3.8	3.8	4.1	4.3

＊評価に対するコメント

免疫学 担当教員

問7、8で、いずれも4点台の評価でした。おおむね、免疫学に対する理解が深まったと考えます。免疫学は多領域にまたがり、内容的にもファジーで難しい学問領域です。本学では専門の講座がないため、多くの講座の先生によって開講されており系統だてて学習しにくい面があると思ひます。ぜひ学生諸君には、自ら学ぶ姿勢で、講義で疑問が生じた際には、遠慮なく教官の方へ質問して下さい。教科書を全て読む必要はありませんが、指定した教科書は分かりやすく書かれており、ポイントをふまえて読めば、理解の助けになります。試験に関しては、事前に出題ポイントを提示しており、基本的な出題となっていますので、最低6割を取れるような答案を望みます。

科目名：医学英語Ⅲ（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：114 配付数：105 回収数：85 回収率：81.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.7	4.1	3.9	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8

＊評価に対するコメント

医学英語Ⅲ 担当教員

医学英語Ⅲは、学生のみなさん全員が取り組む e-learning コースと、講師ごとに分かれて行う選択コースの組み合わせで展開しました。講師別クラスでは、対面授業を実施することができてよかったと考えています。皆さんは、課題の意図を理解し、しっかり取り組んでくれたという印象を持っています。残念ながら、出席状況が問題となる学生がかつてないほど多く、工夫が必要かもしれないと考えています。今後や皆さんからのフィードバックをもとに、課題の提示方法やアクティビティを工夫したいと考えています。

科目名：心肺病態制御医学（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：115 配付数：112 回収数：85 回収率：75.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	3.6	3.7	3.0	3.7	3.6	4.0	3.9

＊評価に対するコメント

心肺病態制御医学 担当教員

今年度は、新型コロナパンデミックによる制限が解除されて、ようやく対面での講義が可能となったので、Manaba 上での講義に比べると格段に理解しやすくなったと推察されます。しかし、学生からのコメントでは、循環器・呼吸器のいろいろな分野が入り乱れて組まれている上、時間割変更が多すぎて、授業内容を理解するのに苦労したという内容が上がってきました。コーディネーター側として、できるだけ理解が進むよう、そしてできるだけ変更が最小限になるよう次年度に引継ぎ臨みたい。一方、予習が3.2ポイント、復習は3.0ポイントと例年よりも低下傾向にあり、講義の前後で時間をあけずに予習復習して、理解を深めていただきたい。

科目名：消化器医学（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：114 配付数：114 回収数：69 回収率：60.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	3.9	3.9	3.4	3.9	3.9	4.2	4.2

＊評価に対するコメント

消化器医学 担当教員

今年度はオンラインを併用しない全員登校での受講となったが、manaba による講義資料配付と小テストは継続した。授業評価アンケートには60.5%の学生から回答があった。予習・復習実施割合は低かったが、学習意欲の増強、満足度の評価は比較的良好であった。定期試験の成績はここ数年良好な状態が続いており、manaba の資料と小テスト併用により効率よく学習できているものとする。次年度から講義時間数が大幅に減少するため、更なる効率化を図っていきたい。

科目名：医療概論Ⅳ（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：87 配付数：85 回収数：82 回収率：96.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.3	3.8	3.5	3.9	4.0	3.9	4.1

＊評価に対するコメント

医療概論Ⅳ 担当教員

科目の満足度が4.1と概ね高く、学生の学習意欲の向上に寄与できていると判断する。来年度も、同様の形式で行いたい。

科目名：腫瘍学2（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：87 配付数：87 回収数：87 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.6	4.1	3.9	3.6	3.8	3.7	3.8	3.9

＊評価に対するコメント

腫瘍学2 担当教員

回収率が100%と例年に比べて大変向上していた。この回収率で解析できることは理想的である。全体として満足できるか？の項目は3.9であり例年と大きな変化なく、改善の余地がある。事前に予習をしたかの？項目は3.6と例年より高く、自主学習が向上していることを期待する。今後益々重要になる癌ゲノム医療の最新情報についても改善していく。

科目名：衛生・公衆衛生（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：87 配付数：87 回収数：86 回収率：98.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	3.6	3.7	2.9	3.3	3.4	3.5	3.8

＊評価に対するコメント

衛生・公衆衛生 担当教員

衛生学と公衆衛生学は広範な分野を扱うため知識中心となってしまいますが、実践的な部分は衛生・公衆衛生実習で補完することとしています。尚、久しぶりに対面授業となったためか出席が悪い学生が目立つ学年となり、スチューデント・ドクターとしての素養に不安を感じました。しっかり生活習慣を整えて上の学年に進むようにしてください。

科目名：法医学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：87 配付数：87 回収数：86 回収率：98.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.6	4.2	4.0	3.7	3.9	4.0	4.2	4.3

＊評価に対するコメント

法医学 担当教員

法医学は、基礎医学の中の社会医学に分類される。学習到達目標は、臨床医として、検案（検屍）業務を依頼された際の基本的知識、特に外因死に関する理解を深め、発見時死因不明な遺体を拝見して検案（検屍）ができることである。今年是对面による講義に戻り、学生サイドから「楽しかった」「内容は興味深いものであった」等の感想が寄せられた。授業評価の評点からも概ね有意義な講義であったと言える。

科目名：医療情報学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：87 配付数：87 回収数：85 回収率：97.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.2	3.8	3.5	3.9	4.0	3.9	4.0

＊評価に対するコメント

医療情報学 担当教員

今年度はそれまでのオンラインと対面のハイブリッド講義から、対面講義へと移行しましたが、講義の出席率は向上しました。また昨年度から、AIなどタイムリーな話題などを講義のなかに盛り込んで改善を行っています。しかしながら、全体満足度として3以下が3割を占めているため満足度向上のためさらなる改善を検討していきたいと思えます。

科目名：整形外科学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：87 配付数：87 回収数：86 回収率：98.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.0	3.9	3.4	3.8	3.8	3.9	4.0

＊評価に対するコメント

整形外科学 担当教員

評価平均は3.4～4.0であり、昨年と同等だった。2023年度は回収率がほぼ100%であり、2022年度の28.4%から大幅に上昇しているが、それでも評価が変わらなかったのは喜ばしい。自由記載のコメントで、講義する側と学生側での考え方の違いが感じられたため、引き続き学生にわかりやすい講義をこころがけていきたい。

科目名：麻酔科学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：87 配付数：84 回収数：83 回収率：98.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.1	3.8	3.4	3.7	3.9	3.9	4.1

＊評価に対するコメント

麻酔科学 担当教員

当科講義に対するフィードバックをいただき、ありがとうございます。問8が4.1であり、一定の満足度を得ることができ、安堵しております。高評価をいただいた教員もおり、今後の励みになるものと思います。今後ともより学生満足度の高い講義を行うことができるよう、取り組みを続けてまいりたいと思います。

科目名：救急医学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：87 配付数：87 回収数：87 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.6	4.1	3.9	3.5	3.8	3.8	4.0	4.0

＊評価に対するコメント

救急医学 担当教員

おおむね3-5（平均4）の評価でした。低評価の項目から推察すると、事前の予習なしでも理解できるような講義を希望しているという学生がやや多いということでしょうか。授業内容を理解する努力のために、質問しやすい雰囲気作りに心がけます。一方、学習意欲がわいたと回答した割合が高く、満足度もおおむね良好の様でしたが、今後も最新の情報をアップデートし、創意工夫していきたいと思います。

科目名：臨床検査学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：87 配付数：87 回収数：85 回収率：97.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.2	3.8	3.5	3.9	4.0	3.9	4.0

＊評価に対するコメント

臨床検査学 担当教員

目的の達成、難易度、全体の満足度は4点前後と一定の評価をいただきました。予習・復習については昨年同様に3.5点前後と低いため、manabaを用いて事前配布する講義資料などについて、より工夫します。臨床検査医学は多くの分野に関わる科目にて、学生の皆さんにさらに興味を持っていただけるような、充実した授業となるよう検討していきます。

科目名：症候別・課題別講義（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：87 配付数：87 回収数：84 回収率：96.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.6	4.1	3.9	3.4	3.9	3.9	4.0	4.2

＊評価に対するコメント

症候別・課題別講義 担当教員

症候別課題別講義は4月から開講され、全て対面授業で実施しました。講義のテーマは文部科学省のコアカリ37症候を基本に構成されており、卒業時までには修得すべき知識を中心に講義をしていただいております。授業評価ではCBTに直結して有用であるとの意見がある一方、ボリュームが多い、領域別に講義を構築してほしい等の意見がありました。今回の授業評価結果を参考にして、今後も授業の改善に努めていきたいと考えております。

科目名：臨床放射線学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：87 配付数：87 回収数：86 回収率：98.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.2	3.9	3.4	3.7	3.4	3.7	3.8

＊評価に対するコメント

臨床放射線学 担当教員

アンケート結果に関しては担当教員の間で情報を共有して、可能な範囲で検討したいと思います。放射線科という内容の性質上、画像も多く、スライド等では難しく感じる部分もあるかもしれませんが、講義内容やスライド枚数・表示方法等含め、今後もニーズに沿ったより良い講義を行いたいと考えています。医師国家試験を意識することも当然ですが、グローバルな考え方を身に着けることも重要と考えています。実習でも頑張ってください。

科目名：臨床薬剤・薬理・治療学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：87 配付数：87 回収数：86 回収率：98.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	3.9	3.9	3.3	3.8	3.8	3.9	4.0

＊評価に対するコメント

臨床薬剤・薬理・治療学 担当教員

満足度は、4点前後と学生からは、一定の評価をいただきました。一方、「薬物動態の分野が難しかった」など、授業の改善に対する提案も寄せられました。臨床薬剤・薬理・治療学は、広く薬剤に関する領域を扱い、医薬品の適正使用に重要な位置を占めています。学生が、意欲的に学びを進めていけるように、今後も充実した内容の準備をまいります。

科目名：臨床疫学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：87 配付数：87 回収数：87 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.0	3.9	3.4	3.6	3.4	3.5	3.6

＊評価に対するコメント

臨床疫学 担当教員

これまで学んだ医学・統計学を基礎にして理解をしていくことが必要となるため、少々対応が難しかった学生もいたようですが、予習・復習が足りないことも影響していると思います。臨床疫学は臨床論文の理解に必須の知識になり、臨床研究を行うための基礎でもありますので、しっかり勉強を続けてください。

科目名：健康弱者のための医学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：87 配付数：87 回収数：86 回収率：98.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.1	3.8	3.1	3.7	3.8	3.8	4.0

＊評価に対するコメント

健康弱者のための医学 担当教員

病気などにより健康ではない状態で生活することは、だれしにも訪れる可能性がある。健康弱者の病態や心理状態を理解することはこれからの医療者にとって必要なことと考え、様々な観点から実務に携わる講師に授業をお願いした。全体の評価は4点台に乗ったものの、現場に出る前の学年ではあまり関心を持っていない内容も含まれていたかもしれない。しかし将来的に自らの糧となる学問と捉え、しっかり復習してくれることを期待したい。

科目名：医療安全（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：87 配付数：87 回収数：86 回収率：98.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.8	4.3	4.0	3.7	4.0	4.1	4.0	4.2

＊評価に対するコメント

医療安全 担当教員

「授業出席」の評価が高く医療安全講義が1日に数コマと集中していたことが要因の一つと思います。また「満足度」「学習意欲」「理解するための努力」も評価点が高く、「予習・復習」の評価点が低かった点について、医療安全講義は他の臨床講義とは性質が異なり対応が難しいと思われたことや、授業を通して医療安全は患者安全のみならず、医療従事者自身も守ることに繋がるのが理解された結果なのではないかと推察いたします。

科目名：情報リテラシー（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：57 回収数：57 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.7	4.3	3.2	3.9	3.6	3.6	4.0

＊評価に対するコメント

情報リテラシー 担当教員

The students attending the lectures had a roughly normal distribution of learning ability ranging from high to low learning ability. The pace of the lecture is standard, but whether you feel it is fast or slow depends on your personal ability. You need to understand that fact. This is because 15 hours of lecture time is not enough, as students need to prepare and review the textbook on their own, regardless of their learning ability.

科目名：初年次セミナー（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：58 回収数：58 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.9	4.4	3.6	4.4	4.6	4.4	4.6

＊評価に対するコメント

初年次セミナー 担当教員

本年度も全体の満足度に関しては平均4.6と、高い評価をいただいたので嬉しく思っています。特に現役の看護師、助産師、保健師の講演、看護職キャリアセンターと二輪草センター共催の「看護の世界」に絶賛をいただきました。次年度もより充実した企画を提供したいと思っています。初年次セミナーは終了しましたが、アカデミックスキルは一朝一夕で身に付くものではありません。今回関わった教員一同、皆さんのスキルが向上するように、そして充実した大学生活が送れるように、卒業するまで見守りたいと考えています。

科目名：看護社会論（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：58 回収数：58 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.6	4.1	3.6	3.9	4.3	4.2	4.5

＊評価に対するコメント

看護社会論 担当教員

今年度は、すべての授業を受講生の全員が対面で受講する形式で実施しました。学生評価のスコアをみると、多くの学生が科目全体の難易度は適切であり、今後の学習意欲が喚起されたと考えているようです。人文社会科学的な視点から、看護・看護師と関連する社会現象を理解するという本科目の目的が達成されていると考えています。今後も社会情勢の変化に応じた内容を授業に取り込むことで学生の興味や関心を引き出すことを目指したいです。

科目名：栄養学（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：58 回収率：96.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.7	4.2	3.3	4.1	4.2	4.3	4.5

＊評価に対するコメント

栄養学 担当教員

本年度は通常の全員登校による対面講義を行うことができました。アンケートの結果は、難易度の適切さの平均は4.2ポイント、全体の満足度については4.5ポイントと高く、適正な企画であったと考えます。次年度も本年度同様、わかりやすい講義構成を心掛けたいと思います。

科目名：発達心理学（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：58 回収数：58 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.3	4.0	2.8	3.7	4.0	4.1	4.3

＊評価に対するコメント

発達心理学 担当教員

今年度はスライドとハンドアウトを用いた対面講義を実施した。3コマ連続の講義であり、出来るだけ飽きが来ないようにポイントごとに動画教材を併用したり、Zoomのチャット機能で双方向性（質問に答えてもらう、質問してもらう）を持たせようと工夫した。その結果「分かりやすかった」等のコメントが寄せられたが、試験範囲が広く大変だという感想も聞こえてきた。来年度は小テスト等も活用しながら、こまめに振り返りが出来るように工夫したい。また双方向性の点についても、より参加しやすくなるように環境を整えていきたい。

科目名：コミュニケーション論（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：53 回収率：89.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.6	4.7	4.3	3.9	4.2	4.2	4.2	4.2

＊評価に対するコメント

コミュニケーション論 担当教員

全体の満足度は、これまでの年度と比較しても平均点と思われませんが、評価点にばらつきがあるのは変わらず、その点においては科目責任者の努力の必要性を感じます。コミュニケーション論は講義形式で知識の獲得が中心ですが、事例から対応を考えるような小テストを複数回行うことで、実践的なイメージがつくような工夫をしています。このような内容が一定数の高い評価を得たものとふり返ります。

科目名：英語ⅡA・ⅡB（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：54 回収数：45 回収率：83.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.6	4.4	3.9	3.8	3.7	3.7	3.6	3.8

＊評価に対するコメント

英語ⅡA・ⅡB 担当教員

一年間お疲れ様でした。この授業では、英語で書かれたニュース記事を読んだり音声を聞いたりすることによって英語の運用能力を高めることを目標としていました。英文の内容および構造の難易度はそれほど高くはなく、適切だったようです。受講者のみなさんの取り組みに敬意を表します。（英語ⅡA 担当教員）

I am glad that most nursing students seemed to enjoy English, and to find our class of value. For nurses, English is not the most important subject, but English ability is certainly an asset for health care professionals. It is a privilege to teach future nurses. Nursing is an essential and noble profession, and nurses are very special people. I understand this well, because there are many nurses among my own family and friends. When people hear that you are a nurse, they know immediately that you are intelligent, hard-working, dedicated, kind, and trustworthy. I hope that each of our students will become the best nurse he or she can be, and be proud to wear the title "nurse."（英語ⅡB 担当教員）

科目名：統計学（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：53 回収数：48 回収率：90.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.3	3.8	3.6	3.4	3.3	3.3	3.5

＊評価に対するコメント

統計学 担当教員

問1の予習についての設問は、比較的低い評価でした。自分はどの部分が分からないのかを予習段階で把握することは、内容を理解する上で役立つでしょう。初めて習うことばかりなので、分からないのは当然です。しかし、理解するための努力はある程度必要です。例えば日頃から積極的に質問すると良いでしょう。

科目名：病理学各論（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：57 回収数：57 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.4	3.9	3.6	4.0	4.1	4.2	4.4

＊評価に対するコメント

病理学各論 担当教員

新カリ開始後3年目の病理学各論でしたが、本年度は通常の全員登校での対面授業となりました。全体の満足度の評価平均は4.4ポイントと高く、適正な企画であったと考えています。特にmanabaで公開した講義のYouTube動画が好評のようでした。公開日制限はありませんので、国試の勉強などに役立っていただければと思います。

科目名：感染制御学（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：57 回収率：95.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.4	3.6	3.3	3.8	3.8	3.7	3.9

＊評価に対するコメント

感染制御学 担当教員

従前1年生の後期に配置されていた感染制御学ですが、カリキュラム負荷の改善のため2年生の前期に配置移動されました。2年生の科目になって初めての今年は、コロナ禍も明けて全員登校の対面授業となりました。全体の満足度のスコアは3.9ポイントと前年とほぼ変わらず、適切な企画であったと考えています。今後も改善を加え、より良い企画にしたいと思います。

科目名：臨床病態治療学Ⅰ（精神・小児・婦人科系疾患）（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：58 回収率：96.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.5	3.9	3.3	3.9	3.9	4.1	4.2

＊評価に対するコメント

臨床病態治療学Ⅰ（精神・小児・婦人科系疾患） 担当教員

新カリ開始後4年目の臨床病態治療学Ⅰでしたが、本年度は通常の全員登校での対面授業となりました。全体の満足度の評価平均は4.2ポイントと高く、適正な企画であったと考えています。次年度も、より充実した内容を企画したいと思います。

科目名：健康教育論（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：59 回収数：54 回収率：91.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.4	3.4	3.0	3.3	3.5	3.3	3.4

＊評価に対するコメント

健康教育論 担当教員

健康教育論は、卒業後の看護実践を行う上で患者への健康指導に必須の内容を含んでいます。それ故に教科書以外の資料も使用し、また、様々な事例を通して理解できるように努めていますが、評価から講義のすべての内容をうまく処理しきれない場合や、十分な理解が得られないときもあつたようです。来年度は、より具体的な事例を用いるなど学生がより理解しやすい講義になるように、また予習から学習ができるような講義のスタイルになるように努めたいと思います。

科目名：看護理論（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：56 回収数：51 回収率：91.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
4.5	4.8	4.1	3.8	3.7	3.9	3.8	4.2

＊評価に対するコメント

看護理論 担当教員

今年度もピアレクチャーを主軸として10の代表的な看護理論を学習しました。事前学習を行って学生のプレゼンテーションを聞くアクティブラーニングにより、目標達成（問5）は3.7、学習意欲（問7）は3.8、全体の満足度は4.2という評価でした。自由記載にあつた「実習にも生かすため、看護理論の適用について考えていく」は、まさに本科目のねらいであり、この学びが今後の看護実践に活用されることを願います。

科目名：成人看護学Ⅰ（健康状態と看護）（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：54 回収率：90.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.5	3.8	3.1	3.3	3.0	3.4	3.4

＊評価に対するコメント

成人看護学Ⅰ（健康状態と看護） 担当教員

この科目は、第2学年前期開講の必修科目である。成人看護学についての総論的な内容であり、抽象度が高い科目である。学生の理解を深めるためには、具体的な事例を用いるなど更なる工夫が必要である。

科目名：精神看護学Ⅰ（個人と社会における精神保健）（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：56 回収率：93.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.3	3.8	3.0	3.6	3.9	3.9	4.1

＊評価に対するコメント

精神看護学Ⅰ（個人と社会における精神保健） 担当教員

今年度の授業は全て対面でできたのですが、学生間で集中力に差があるような印象でした。精神看護学は、個人から社会まで看護の対象を広く捉えられるように多角的な知識を獲得します。この知識から復習を通じて様々な社会問題に目を向けてもらうことを期待しているのですが、知識の提供だけに終わり、一部の学生にとっては面白みのない授業になっているのかもしれない。来年度は学生が主体的に視点を広げられるような授業の工夫を考えていきます。

科目名：臨床薬理学（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：60 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.5	3.7	3.0	3.7	3.7	3.6	4.0

＊評価に対するコメント

臨床薬理学 担当教員

新カリ開始後3年目の臨床薬理学でしたが、本年度は通常の全員登校による対面授業となりました。全体の満足度の評価平均は4.0ポイントと昨年度と同じで、ほぼ適正な企画であったと考えています。次年度は講師が変わる予定で、より充実した内容を企画したいと思います。

科目名：臨床病態治療学Ⅲ（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：59 回収率：98.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.4	3.7	3.2	3.7	3.7	3.9	4.0

＊評価に対するコメント

臨床病態治療学Ⅲ 担当教員

新カリ開始後3年目の臨床病態治療学Ⅲでしたが、本年度はコロナ禍もあけて、全員登校による対面授業となりました。全体の満足度の評価平均は4.0ポイントと昨年度と同程度の高い評価になりました。ほぼ適正な企画であったと考えています。次年度は、より充実した内容を企画したいと思います。

科目名：保健医療福祉システム論（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：59 回収率：98.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.5	3.8	2.9	3.6	3.6	3.6	3.9

＊評価に対するコメント

保健医療福祉システム論 担当教員

この科目は、看護職としてよいケアを提供するために人々の生活を支えるための制度や社会システム、また土台となる考え方として、社会福祉の歴史、考え方について学びました。保健、福祉の研究者、現場の方々からのオムニバスの講義で、皆さんの中で統合するのは大変だったことと思います。講義資料について、プリントではなくデジタルデータの要望があり、勉強に仕方も変わってきたことを実感しています。来年度の改善に役立てたいと考えています。

科目名：成人看護学Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：60 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.5	4.0	3.4	3.7	3.8	3.9	4.1

＊評価に対するコメント

成人看護学Ⅱ 担当教員

出席に関する問2は「4.5」、授業の理解に関する問3は「4.0」、到達目的の達成に関する問5は「3.7」、科目全体の満足に関する問8は「4.1」であることから、学生の学習目標はおおむね達成できたと考える。しかし、予習・復習に関する問1、問4がいずれも「3.4」と他項目よりも低い点が課題である。学習内容の定着のためには講義の予習・復習が重要であることを、引き続き学生に強調していきたいと考える。

科目名：高齢者看護学Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：59 回収率：98.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.3	3.7	3.4	3.8	3.9	3.9	4.0

＊評価に対するコメント

高齢者看護学Ⅱ 担当教員

回収率98.3%と非常に高く、全体を反映している結果であることから、科目の満足度評価4.0は良い結果であったと考える。予習と復習に関する項目の評価が低く、事前に資料を公開するだけでなく、事前課題等の工夫を検討していきたい。

科目名：がん看護学Ⅰ（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：57 回収率：95.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.4	3.8	3.5	3.7	3.9	3.7	3.8

＊評価に対するコメント

がん看護学Ⅰ 担当教員

がん看護学Ⅰ内容を拡充し3年目となりました。対面とZoom（学外講師）を併用し講義の展開をダイナミックに進める試みの途上です。後半ではがん患者さんへの援助技術は学生の皆さんがGメンバー一丸となって実践し、考察することで例年以上の学修成果を得たと思います。学生の誰しもが一度は出会うがん患者さんへのQOLをどのように理解し、支援するかについて努力し得た満足感は高く得られており、今後も充実した授業を共に目指したいと思います。

科目名：チーム医療・リハビリテーション看護論（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：58 回収率：96.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.5	3.8	3.3	3.9	3.9	3.8	4.0

＊評価に対するコメント

チーム医療・リハビリテーション看護論 担当教員

問8の本科目の総合評価は4.0と昨年と変わらなかったが、前期試験日に配付することにより回収率は上昇し、全体の意見を反映した結果となった。問2は4.5であり、5類への移行や授業体制の変化があると考えられるが、対面により積極的に授業参加する姿勢が認められた。その他の項目は昨年と変化はないが、問7の今後の学習意欲が高まるかでは3.8であり、次年度も学習意欲を高める授業構成や内容を検討する。

科目名：在宅看護学（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：28 回収率：46.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.8	4.1	3.4	3.7	3.9	3.7	4.0

＊評価に対するコメント

在宅看護学 担当教員

在宅で行う看護のイメージができるよう動画を見てもらうことや非常勤講師に実際をご教授頂いた。時々、ワークをして個人やグループで在宅療養者やその家族への関わり方など考えることや事前小テストを実施し、授業中に理解を深めた。在宅看護に関わる法令・制度、幅広い中からニーズの高い疾患、在宅ならではの強みもいかした看護過程の考え方など特徴を理解できた。定期試験でも在宅看護について知識を修得できていたことを評価する。

科目名：看護英語文献講読（看護学科第3学年前期／選択必修）

履修者数：54 配付数：54 回収数：39 回収率：72.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.1	3.8	2.9	3.8	3.8	3.9

＊評価に対するコメント

看護英語文献講読 担当教員

看護英語文献講読は、3年生前期の多忙な時期にGWで集中して展開しています。日米の文化的差異を理解する柔軟な姿勢とがん医療現場で活用できるBooklet（日本語版冊子）作成は、受講学生の皆さんにとってGメンバー同士で助け学び合いが含まれ、看護者としてがん患者（小児含む）を効果的に支援する教育的アプローチに役立つ価値ある内容となるでしょう。その点が満足度を高める評価につながっていくことを期待しています。

科目名：国際保健・災害看護論（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：57 回収率：93.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.7	4.0	2.8	3.5	3.6	3.9	4.0

＊評価に対するコメント

国際保健・災害看護論 担当教員

この科目は国際看護と災害看護の2つで構成されています。今まであまり目を向けてこなかったが看護は災害時にとっても重要な役割を果たすと初めて気づくことが出来た、視野が広がったなどの学びが多くレポートに書かれておりました。文化を尊重しながら寄り添う姿勢など看護の本質をしっかりとみ取ってくれたと思います。まさに今まで学んできた看護の集大成としてこの科目の狙いが達成されたと考えます。

科目名：看護管理・医療安全論（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：45 回収率：73.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	4.6	3.5	2.6	3.3	3.7	3.3	3.5

＊評価に対するコメント

看護管理・医療安全論 担当教員

事前学習は特に課しておらず、課題も提示がない授業運営であったため、予習・復習が行いにくかったと思います。講義の出席率は高く、まじめに学習に取り組んでいたと思います。難易度、満足度は3.5以上であり、卒業後の看護実践におけるマネジメントや医療安全に生かすことができると期待しています。

科目名：がん看護学Ⅱ（がんサバイバーシップ）（看護学科第4学年前期／選択必修）

履修者数：38 配付数：38 回収数：9 回収率：23.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.1	3.7	2.8	3.7	4.0	3.9

＊評価に対するコメント

がん看護学Ⅱ（がんサバイバーシップ） 担当教員

がん看護学Ⅱ（がんサバイバーシップ）は、将来の実践に役立つことを期待されて受講者がますます増加しました。期待を実現するために、がん看護学Ⅰの学びの基盤に立ち、受講者とがんサバイバーシップにあるがん患者さんの進むコースを見据える力をつける講義とGW展開をしました。各メンバーのテーマに沿う展開は満足感を得られており、今後も期待に応える工夫を重ねていきます。

科目名：がん看護学Ⅲ（エンドオブライフケア）（看護学科第4学年前期／選択必修）

履修者数：17 配付数：17 回収数：7 回収率：41.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.9	4.1	3.4	4.1	4.1	4.4	4.4

＊評価に対するコメント

がん看護学Ⅲ（エンドオブライフケア） 担当教員

がん看護学Ⅲ（エンドオブライフケア）は、がんサバイバーシップを超えて、残念ながら迎えるであろうがん患者さんの最後の時までの生活の質を支える看護を学ぶことに主眼があります。イメージが難しい課題ですが、受講学生の皆さんの関心がぶれず、学びを共有する姿勢を通してメンバーとGWに取り組んだことが満足度を高めたのでしょう。エンドオブライフまでの生の充実を支援する課題がよく学ばれていました。

2023年度前期「企画に対する学生評価」

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。
	問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。
	問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。
	問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。
	問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。
	問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。
実習（演習）内容	問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。
	問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。
	問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。
	問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。
	問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。
実習（演習）環境	問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。
	問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。
総合評価	問17 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
 ④ やや思う (良い)
 ③ どちらとも言えない (普通)
 ② あまりそう思わない (あまり良くない)
 ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：基礎生物学実習（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：94 配付数：94 回収数：90 回収率：95.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.5	4.9	4.6	4.6	4.7	4.5	4.5	4.6	4.5	4.7	4.5	4.5	4.3	4.4	4.6	4.6	4.7	4.6

＊評価に対するコメント

基礎生物学実習 担当教員

本年度から紙媒体の評価シートによる回答方法（無記名）に戻ったため、回収率は92.6%と高く、コロナ感染拡大以前と同様の正確な評価をしていただいたと思います。また、本年度の実習も昨年同様、実技実習とオンラインのハイブリッド形式で行いました。実技実習に関して、学生からは「個人への対応が丁寧だった」とするコメントもいただいております。コロナ禍の状況で実施してきた少人数制の実技実習の方が、むしろ各学生からの要求に対して細やかな対応ができ、それゆえ教育効果は高いと感じております。また、「問13」については、これまででない4.4という高い評価をいただいた反面、やはり一部の学生からはレポート課題の出題が多いとのコメントもいただいております。来年度からは他の授業科目のことも考慮し、本実習科目の評価法とレポートの出題内容・出題数を再検討する方針でおります。

科目名：医用物理学実習（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：94 配付数：94 回収数：93 回収率：98.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.8	4.9	4.5	4.3	4.7	4.6	4.1	3.8	4.1	4.5	4.1	4.1	3.8	3.7	4.3	4.5	4.2	4.0

＊評価に対するコメント

医用物理学実習 担当教員

総合評価は昨年度より0.4ポイント下がり、4.0であった。個別の評価では、問1（予習）、問10（資料）、問14（意欲）の項目で昨年より大きく下がった（それぞれ0.7、0.5、0.9ポイント）。実習内容は昨年度と同じなので、学生の読解力、つまり文章から必要な情報を読み取る力の低下が推察される。この評価を受けて、来年度の実習に向けて対応策を検討している。

科目名：形態学実習Ⅰ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：97 配付数：66 回収数：63 回収率：95.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.9	4.6	4.4	4.3	4.4	4.6	4.4	4.4	4.6	4.4	4.2	3.8	4.3	4.3	4.5	4.5	4.4

＊評価に対するコメント

形態学実習Ⅰ 担当教員

本年度の形態学実習Ⅰは、実習室での対面による実習を行いました。事前にmanaba（学修支援システム）により配信している実習資料については、高評価をいただいております。一方、反省すべきコメントもいくつかいただいておりますので、次年度の実習に反映し、より充実した「形態学実習Ⅰ」を展開していければと考えています。

科目名：生化学実習（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：97 配付数：97 回収数：86 回収率：88.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.7	4.4	4.2	4.3	4.0	4.3	3.9	4.3	4.3	4.1	3.8	3.6	3.9	3.9	4.3	4.4	4.1

＊評価に対するコメント

生化学実習 担当教員

今年は、コロナ禍明けで、本格的な対面形式で、教官と学生が対話しながら実験を進めていく本来の「実習」ができることができた。生化学1そして2の講義を経て、本実習が始まるスケジュールだが、実習内容が生化学1の講義内容のものが多く含んでおり、学生のコメントをみると、「生化学1講義のテスト後のほうが、実験の内容が十分理解できて、より充実した実習になった」という意見が散見された。この提案については講義スケジュール的に難しいが、実習前に、必要な知識の予習・復習を、学生への指導ふくめて教育の工夫をしていきたい。

科目名：生理学実習・演習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：114 配付数：105 回収数：84 回収率：80.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.2	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2

＊評価に対するコメント

生理学実習・演習 担当教員

第3学年の生理学実習・演習を2023年6月19日～7月7日に実施しました。未だ新型コロナウイルス感染症の脅威に曝されていたことから、学生実習を午前と午後の部に分けて実施することにしました。また、実習への参加態度と実習後の演習の成績を以って、各学生の評価をしました。一方、この企画に対する学生さんからの評価は4.2/5.0点でした。回収率が80%であることを考慮すると、2割の学生さんにとっては評価に値しないということかも知れません。

科目名：薬理学実習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：114 配付数：105 回収数：84 回収率：80.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.1	4.3	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	3.9	3.9	4.1	4.1	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

薬理学実習 担当教員

「実習が満足できるものであったか」の評価が4.1であることから、多くの学生に満足してもらえたかと思う。薬理学の知識は、どの診療科でも必要なので、今一度復習をして自分の理解に間違いがないか確認し、臨床系の講義・実習に臨んで頂きたい。

科目名：微生物学実習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：114 配付数：114 回収数：107 回収率：93.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.7	4.9	4.7	4.5	4.8	4.5	4.7	4.4	4.6	4.7	4.5	4.6	4.4	4.3	4.5	4.7	4.8	4.6

＊評価に対するコメント

微生物学実習 担当教員

すべての項目に対して4以上の評価結果が得られたことは教員一同大変嬉しく思います。特に、事前の予習（問1）、実習への積極的な参加（問3）、講義内容との関連性（問9）、技術の習得や実習の難易度（問11、12）において高い評価であったことは、本実習に対する学生諸君の積極性が反映された結果であったものと思います。全体的な満足度（問18）でも高い評価をいただいております。今年度計画した実習内容は概ね成功したものと捉えています。また、「興味深い内容であった」など、私達教員にとって励みになる内容もコメントいただきました。しかし、一方で本実習に関し、改善すべき内容についてもコメントをいただきましたので、次年度の教育に反映させていきたいと思っております。

科目名：寄生虫学実習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：114 配付数：105 回収数：85 回収率：81.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.9	4.2	4.2	3.9	4.0	3.9	4.0	3.9	3.9	4.0	3.8	3.8	3.7	3.8	3.9	4.1	4.1	3.9

＊評価に対するコメント

寄生虫学実習 担当教員

今回の実習では、主に標本のみを観察することが多く、これがモチベーションの低下につながった可能性があります。そこで、次年度は可能であれば、生体を実際に観察する機会を増やす予定です。また、寄生虫の観察においては、顕微鏡だけでなくモニターなども有効活用し、全員が共通の認識・理解を持つように工夫します。

科目名：病理学実習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：114 配付数：113 回収数：85 回収率：75.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	3.6	3.5	3.7	4.1	3.7	3.7	3.7	3.8	3.7	3.5	3.5	3.7	3.6	3.7	4.0	3.9	3.7

＊評価に対するコメント

病理学実習 担当教員

今年度から実習は完全対面で行いました。実習は腫瘍病理と免疫病理で折半で担当しており、実習形態については各講座特色のある形式で行われています。評価はほぼ3.7点前後で平均的であると考えます。教員からの資料や説明はあくまでも道標に過ぎず、各自教科書を参考にして学び直して欲しいと切に思います。

科目名：衛生・公衆衛生実習（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：87 配付数：86 回収数：67 回収率：77.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.7	4.6	4.1	4.0	4.5	4.2	4.1	4.1	4.1	4.2	3.6	3.7	3.0	3.4	4.0	4.1	3.9	3.6

＊評価に対するコメント

衛生・公衆衛生実習 担当教員

衛生・公衆衛生実習では大人数での訪問先が限られるため、実際の現場を訪問する機会を提供できませんでしたが、社会医学の実践面について疫学統計解析の実際から、労働安全衛生法により行われるストレスチェック、保健所行政の実務の実際、感染症対策など多岐にわたる項目の実践面について扱ってきました。衛生学・公衆衛生学講義で学んだ分も含めて、関連分野の学習を今後も続けて下さい。

科目名：法医学実習・演習（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：87 配付数：87 回収数：82 回収率：94.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.8	4.5	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.2	4.2	4.3	4.0	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2	4.3	4.3

＊評価に対するコメント

法医学実習・演習 担当教員

H24年度のカリキュラム変更により法医学関連講義のコマ数が激減した為、実習は「演習を取り入れた講義」とせざるを得ないのが現状である。感染予防対策として今年度も学習支援システム（manaba）にて骨実習を実施したが、評点が概ね4点以上であり、学生に興味をもって受け入れられたことに感謝している。

科目名：基礎看護技術学Ⅰ（共通技術）（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.2	4.8	4.7	4.7	4.7	4.6	4.7	4.4	4.6	4.5	4.1	4.2	3.6	4.2	4.5	4.6	4.5	4.4

＊評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅰ（共通技術） 担当教員

高い回収率で、ご協力いただいた皆さんに感謝いたします。

概ね4.0以上の評価で安堵しました。技術習得は反復練習が必要であるという視点で見ると問11技術を十分に習得できました。4.1は少々心配です。演習ごとに事前学習、事後学習がありますので提出物の量は多いですが、今後の自己練習に役立てていただきたいです。

科目名：基礎看護技術学Ⅲ（診療関連技術）（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：58 回収数：58 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.1	4.9	4.6	4.5	3.9	4.3	4.5	4.0	4.5	4.4	4.1	4.1	3.2	3.8	3.9	4.4	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅲ（診療関連技術） 担当教員

授業評価の回収率は100%であり、演習時間の延長や教員間の指導内容の共有の不足などの意見がありました。今年度の演習は60名一斉に実習室で行い、指導体制について4.3-4.5の評価を得ましたが、自由記載のコメントを踏まえ、よりよい指導体制を検討します。技術を十分に習得、演習の満足度は4.1と概ね良好な結果でしたが、今後の学習への意欲を増す内容(3.8)となるよう、演習企画をブラッシュアップしていきます。

科目名：基礎看護技術学Ⅳ（看護過程）（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：59 回収率：98.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.2	4.8	4.5	4.4	4.1	4.3	4.4	4.1	4.5	4.4	4.1	4.2	3.6	4.0	4.2	4.3	4.3	4.3

＊評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅳ（看護過程） 担当教員

高い回収率でご協力に感謝いたします。

概ね4.0以上の評価に安堵しています。この科目は看護実践に必要な思考の技術を学びます。記述されることによって思考が可視化でき、助言やディスカッションが可能となります。グループワークの時間を増やしてほしいとの声がありました。15時間の科目なのでグループワークの回数をこれ以上増やすことは難しいですが、カリキュラム改正の折には検討したいと思います。

科目名：地域包括ケア実習（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：57 回収率：96.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.8	4.7	4.6	4.5	4.4	4.2	3.9	4.4	4.4	4.3	4.4	3.9	4.2	4.2	4.4	4.4	4.4

＊評価に対するコメント

地域包括ケア実習 担当教員

健康セミナー「げんき種」の準備と実施、施設実習、専門職インタビュー、全体報告会すべてにとっても熱心に取り組まれており、担当地区のチーム、施設実習・インタビューのチームの連携力も向上していました。授業評価は4点台が多く、実習の満足度についても4.4の評価であり、実習企画として概ね良好であったと考えます。実習施設との連絡調整などについて改善の意見をいただいたので、よりよい実習企画になるよう検討していきます。

科目名：実践看護技術学Ⅰ（成人）（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：59 回収数：57 回収率：96.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.3	4.8	4.7	4.5	4.4	4.4	4.5	4.4	4.5	4.5	4.1	4.2	3.8	4.2	4.3	4.4	4.4	4.4

＊評価に対するコメント

実践看護技術学Ⅰ（成人） 担当教員

多くの学生が予習をして積極的に演習に参加しており、授業評価は4.0以上が多く、演習企画は概ね良好だったと評価しています。看護過程の課題は早い段階で提示していましたが、提出時期について、他科目の課題期限と重複することや試験が近く大変だったとの意見が多かったため、いただいた意見を次年度に反映させたいと考えます。

科目名：実践看護技術学Ⅱ（精神・在宅・小児）（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：42 回収率：70.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.4	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.7	4.6	4.7	4.8	4.4	4.4	3.9	4.4	4.5	4.6	4.6	4.5

＊評価に対するコメント

実践看護技術学Ⅱ（精神・在宅・小児） 担当教員

実践看護技術学Ⅱは、母性看護学、小児看護学、精神看護学合同の演習科目です。領域毎の演習を各領域担当教員の演習企画において行いました。演習科目であり、確実に出席し実践を通して学ぶことを重要視します。今年度は、学生評価通り遅刻欠席が少なく、真剣に取り組んでいた結果、満足感が得られる演習になりました。予習を十分行くと、より深められたと思います。来年度は、課題の難易度を再検討し実施していきます。

科目名：実践看護技術学Ⅲ（高齢者・在宅）（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：15 回収率：24.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.8	4.4	4.2	4.2	4.3	4.1	4.0	4.3	4.3	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

実践看護技術学Ⅲ（高齢者・在宅） 担当教員

授業受講姿勢はどのグループも自律的かつ真面目に取り組んでいた。技術の実施やその際の注意事項なども練習を重ね習得された。この度初めて教員で動画教材を作成した。演習の際に確認しながら技術を高められたのか、学生評価からは察することができないが、実践看護技術学Ⅲ終了直後から始まった実習で修得した技術を実践することができた。

2023年度前期「企画に対する学生評価」

臨地看護学実習企画に対する学生評価

実 習 計 画	<p>実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。</p> <p>指導教員と実習指導者の連携はとれていた。</p>
実 習 内 容	<p>実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。</p> <p>実習中に課された記録・提出物の量は適切であった。</p> <p>指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。</p> <p>教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。</p> <p>受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。</p> <p>カンファレンスは実習に役立つ内容であった。</p>
実 習 環 境	<p>教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。</p> <p>安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。</p>
総 合 評 価	<p>実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。</p> <p>この実習は全体として満足できるものであった。</p>

- ⑤ 強く思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：基礎看護学実習Ⅰ（療養生活の理解）（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.8	4.6	4.6	4.3	4.9	4.8	4.4	4.7	4.7	4.8	4.7	4.8

＊評価に対するコメント

基礎看護学実習Ⅰ（療養生活の理解） 担当教員

初めての臨地看護学実習は病棟実習と学内実習の分散実習となりました。感染拡大している中、全員が予定していた病棟実習の体験ができたことは、みなさんが感染予防対策を徹底していた結果の表れだと思います。実習の満足度は4.8、看護職をめざす意欲も4.7の評価であり、これから看護を学んでいくモチベーションが上がる実習企画だったようで、嬉しく思います。今後も感染対策を取りながらの実習形態となると思うので、いただいた意見を参考に運営方法を検討していきたいと思ひます。

科目名：高齢者看護学実習（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：30 回収率：49.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.4	4.3	4.7	4.6	4.5	4.4	4.5	4.3	4.4	4.5	4.5	4.4

＊評価に対するコメント

高齢者看護学実習 担当教員

評価は全ての項目で4.3以上であり、全体評価も昨年と比較して0.2ポイント上がり回収率も約半数であった。COVID-19の影響を受け、病棟実習は通常の4分の1であったが、患者ケアに関する制限は緩和され、直接ケアを行える機会が得られ、知識と実践がつながり多くの学びを得たと考える。しかし、従来の実習時間を確保できないことで学習の深まりは十分とは言えず、実習体制の回復に努めたい。

科目名：小児看護学実習（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：24 回収率：39.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.6	4.5	4.5	4.4	4.6	4.6	4.5	4.5	4.7	4.8	4.7	4.7

＊評価に対するコメント

小児看護学実習 担当教員

COVID-19の影響を受け、今年度も病院や保育園での実習は日数を短縮し、学内実習を取り入れました。それにも関わらず、全ての問いに対して評価は4.0台であり、概ね好評と判断します。問7の難易度や問12の満足度も悪くはなく、学生の学習力の高さを感じます。今後は実習における制約は減っていくと予測します。学生からの評価を維持しつつ、状況に合わせた実習内容の変更を柔軟に検討したいと考えます。

科目名：在宅看護学実習（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：28 回収率：45.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.5	4.5	4.6	4.4	4.5	4.3	4.6	4.6	4.5	4.6	4.5	4.6

＊評価に対するコメント

在宅看護学実習 担当教員

令和5年度の在宅看護学実習は、隔日、半日の訪問看護ステーション実習とオンライン実習を組み合わせて行いました。実習を通して訪問看護利用者の疾病だけではなく、家族関係や経済状況など、様々な視点で看護を行う必要があると学んだのではないのでしょうか。今、入院している患者さんも退院すれば地域で暮らす生活者です。卒後は、多職種連携も踏まえた実践的な看護を行ってほしいと思います。実習お疲れさまでした。

ご存知ですか？大学内で国民年金の学生納付特例申請が可能です！

本学は国民年金法の規程に基づく学生納付特例事務法人の指定を受けているため、本学学生支援課の窓口でも、学生納付特例制度の申請手続きができます。



学生納付特例制度は、学生の皆さんが、申請により保険料の納付が猶予される制度です。この制度を利用することで、万一の事故などにより障害を負ったときの障害基礎年金の受給資格を確保することができます。

申請書類は学生支援課にありますので、申請を希望する方は、学生支援課学生総務係までお越しください。住民票を旭川市に移していない方でも、大学内で申請可能です。

学生納付特例制度とは？

所得の少ない学生の方が、国民年金保険料の納付を先送り(猶予)できる制度です。

- * 病気やけがで障害が残ったときも障害基礎年金を受け取ることができます。
- * 所得の目安は、 $128万円 + 扶養親族等の数 \times 38万円$ で計算した額以下である場合です。

学生納付特例期間の年金はどうなるの？

将来受け取る年金の受給資格期間には算入されますが、年金額には反映されません。

	老齢基礎年金		障害基礎年金(注) 遺族基礎年金
	受給資格期間への算入	年金額への反映	受給資格期間への算入
納付	○	○	○
学生納付特例	○	×	○
未納	×	×	×

(注)障害基礎年金および遺族基礎年金を受け取るには一定の要件があります。

申請時の注意点

- 申請できる期間
 - * 過去期間は申請書が受理された月から2年1か月前(既に保険料が納付済の月を除く)まで、将来は年度末まで申請できます。
- 申請に必要な書類
 - * 申請書
 - * 年金手帳(氏名記載ページ)のコピーと学生証
 - * 失業等の理由により申請を行う場合は、失業した事実が確認できる雇用保険受給者証又は雇用保険被保険者離職票等のコピー

※本学ではマイナンバーを使った学生納付特例申請は出来ません。マイナンバーを使用して申請したい場合には、お近くの年金事務所での申請をお願いいたします。

令和6年度授業料の免除等の申請について

本学の授業料免除は、「高等教育の修学支援新制度による授業料減免（以下「新制度」。）」と「令和元年度以前からの従来の授業料免除（以下「旧制度」。）」の二制度により実施しています。いずれも申請の手続きが必要となりますので、以下の基準等に該当すると思われる学生で、授業料の免除等を希望する場合は、手続きを行ってください。

I. 授業料の免除等の基準等

1. 新制度

授業料減免・日本学生支援機構の給付型奨学金が一体となった制度であり、支援対象となる学生は、住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生で、次の①～③の要件があります。詳細につきましては、文部科学省等のホームページを参照してください。

①学業成績等に係る基準 ～ 成績不振により留置きとなった場合等は対象外となります。

②家計に係る基準

③その他 ～ 学士取得後に入学した場合等は対象外となります。

※文部科学省高等教育の修学支援新制度のホームページ

<https://www.mext.go.jp/kyufu/>

2. 旧制度

令和元年度までに入学した学生で、令和元年度に旧制度の支援を受けており、新制度に該当しない学生が対象となります。本学が授業料免除予算額の範囲内で免除者を決定し、全額免除又は半額免除を行います。現制度の免除基準につきましては、以下をご覧ください。

①経済的理由により、授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀であると認められる場合。

なお、原級に留め置かれている者、又は最短修業年限を超えて在学している者は、免除の対象とはなりません。（病気・留学など特別な事由があると認められる場合は除きます。）

※学業優秀と判断する基準

学部第1学年及び編入学生の当該年度の取扱いは入学を以って学力基準を満たしているとする。
学部第2学年以上の学生については、進級を以って学力基準を満たしているとする。

※修業年限の取扱い

医 学 科 6年（第2年次編入学者は5年、ただし平成27年度以前の編入学者は4年6ヶ月）
看護学科 4年

②授業料納期前6か月以内において学生の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡した場合、又は本人若しくは学資負担者が風水害等に被災したことにより、授業料の納付が困難であると認められる場合。

③②に準じる場合であって、学長が相当と認める事由がある場合。

◎授業料滞納者の授業料免除申請は受理しません。

II. 申請期間等

別途お知らせします。

III. 問い合わせ先

学生支援課学生総務係

TEL：0166-68-2283

Mail：gaku-stu@asahikawa-med.ac.jp

令和6年度日本学生支援機構奨学生の募集について

日本学生支援機構は、優秀な学生でかつ経済的な理由により修学困難な者に学資の貸与及び給付を行っています。本学では、日本学生支援機構からの推薦依頼に基づき、申請者の種々の条件を考慮して選考を行い、日本学生支援機構へ推薦しています。

令和6年度の奨学生募集は、4月に行います。奨学金を希望する学生は、提出期限内に所定の書類を提出してください。

なお、募集時期以外に家計の急変により、学資の支弁に困難な事情が生じた場合は、学生支援課学生総務係に相談してください。

教員の異動

令和6年1月1日	昇	任	医学部一般教育(社会学)	教授	工藤直志
令和6年1月1日	昇	任	医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	教授	高原幹
令和6年1月1日	改組による配置換		医学部社会医学講座	教授	西條泰明
令和6年1月1日	改組による配置換		医学部社会医学講座	准教授	吉岡英治
令和6年1月1日	改組による配置換		医学部社会医学講座	講師	神田浩路
令和6年1月14日	辞	職	医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	准教授	片田彰博
令和6年2月1日	採	用	医学部精神医学講座	講師	坂内聖
令和6年3月1日	昇	任	医学部一般教育(心理学)	教授	池上将永
令和6年3月1日	昇	任	医学部一般教育(化学)	教授	眞山博幸
令和6年3月1日	採	用	医学部看護学講座	教授	小田嶋裕輝